

Ⅲ. 調査結果

1 男女の地位に関する意識について

(1) 各分野での男女の地位の平等感

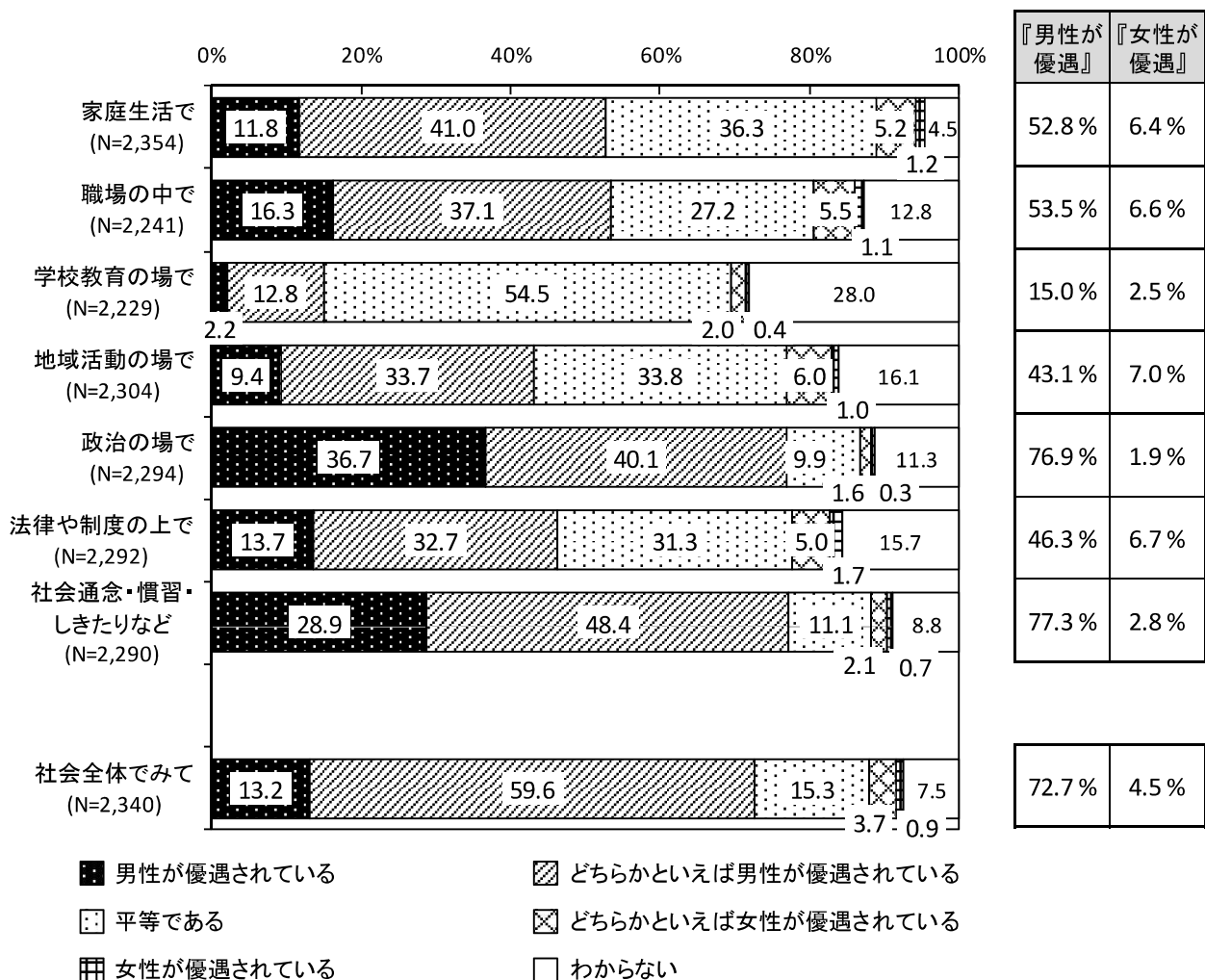
問7 あなたは、次にあげるそれぞれの分野で、男女の地位は平等になっていると思われますか。それぞれの項目について番号を1つずつ選んでください。

●社会全体でみると「平等である」は15.3%、『男性が優遇』されているが72.7%

各分野での男女の地位の平等感は、「男性が優遇されている」と「どちらかといえば男性が優遇されている」をあわせた『男性が優遇』は、「社会全体でみて」では72.7%である。

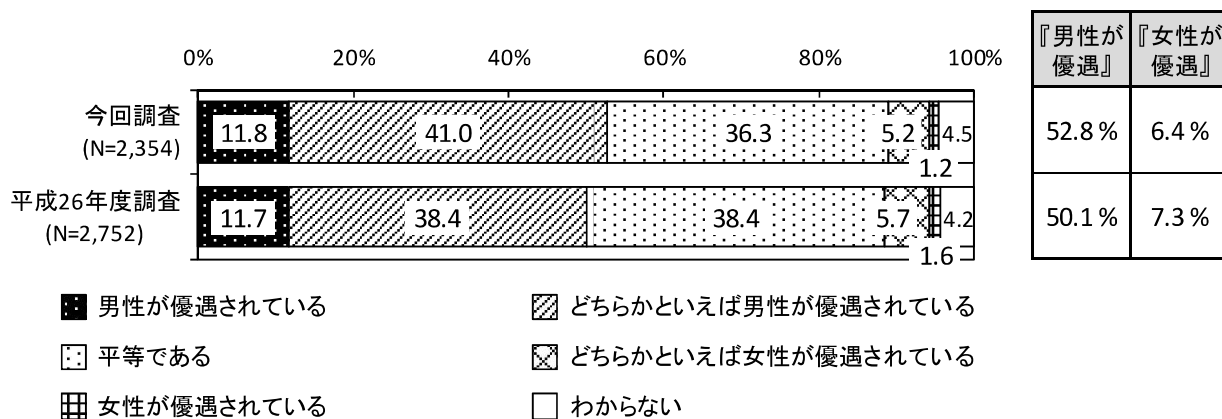
分野別にみると、『男性が優遇』が大きな割合を占めるのは「社会通念・慣習・しきたりなど」(77.3%)、次いで「政治の場で」(76.9%)である。

「平等である」は、「学校教育の場で」が最も多く54.5%となっている。



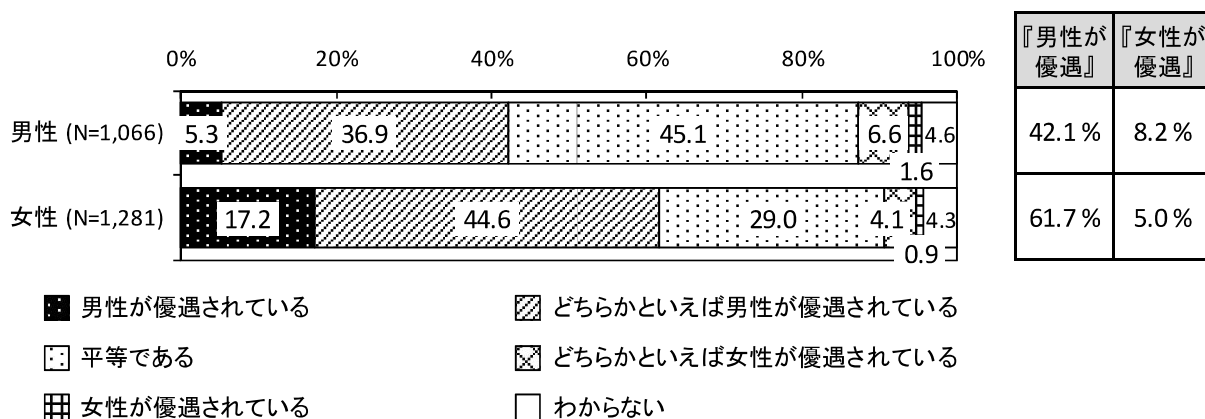
①家庭生活で

家庭生活での平等感は、平成 26 年度調査と比較して『男性が優遇』が 2.7 ポイント上昇し、「平等である」が 2.1 ポイント低下している。



【性別】（家庭生活で）

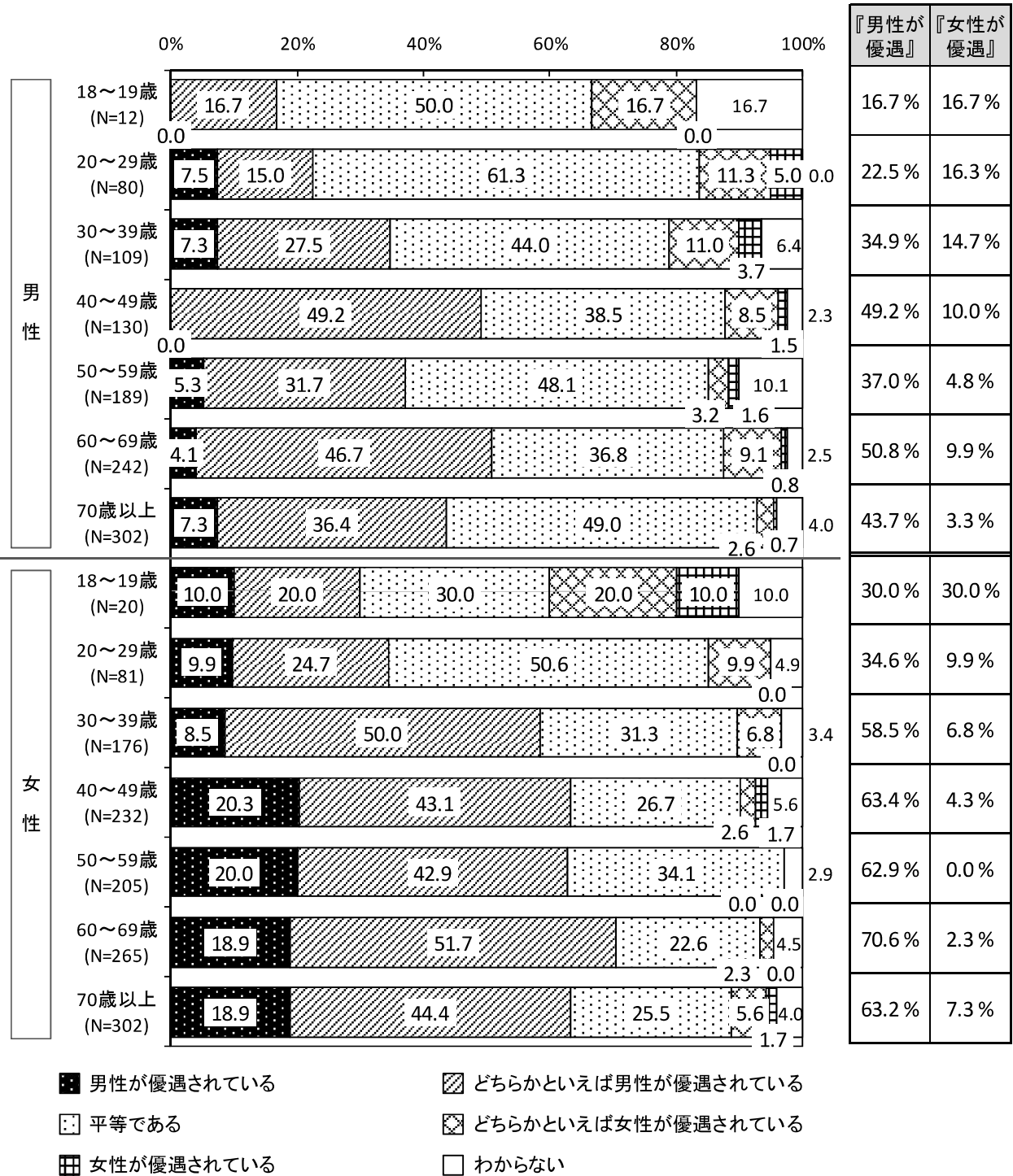
女性では、『男性が優遇』が 61.7%と半数を超えており、男性の 42.1%を 19.6 ポイント上回っている。



【性・年代別】（家庭生活で）

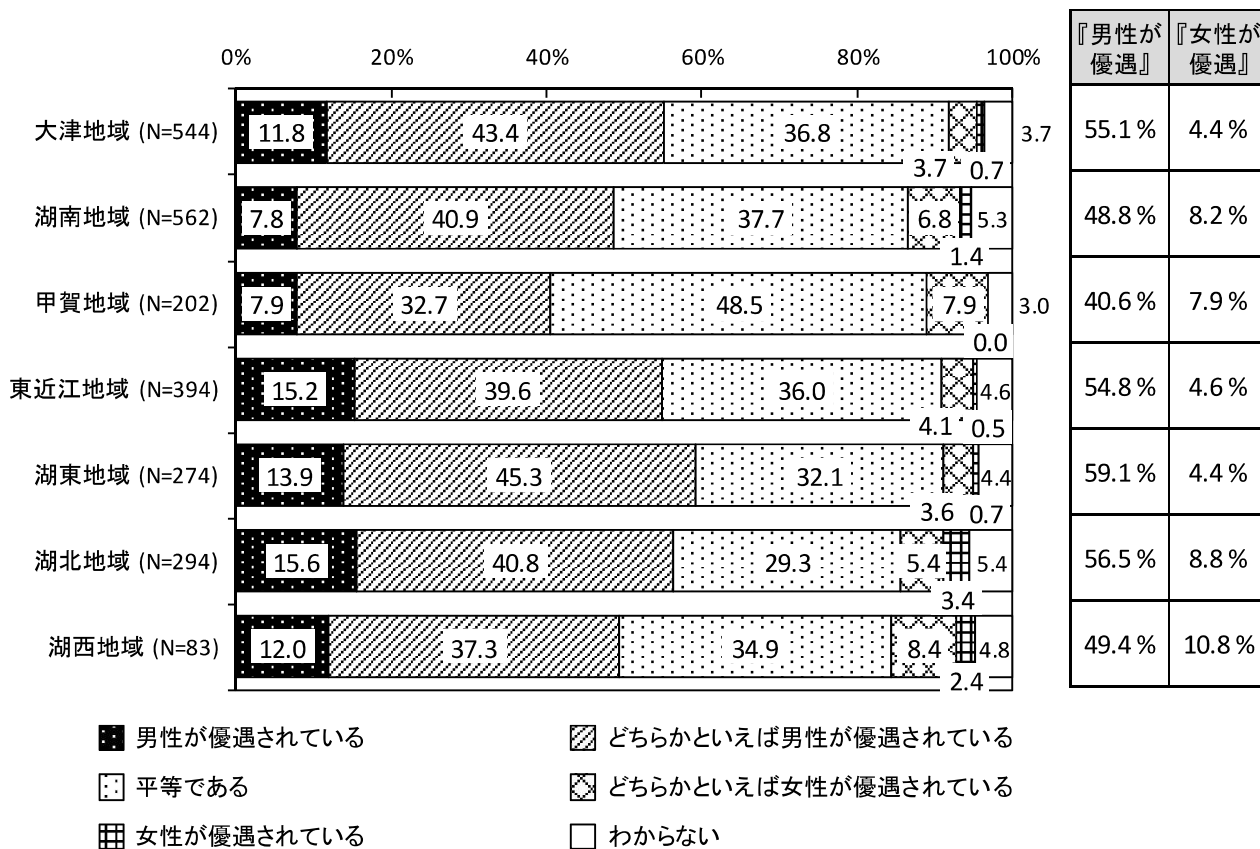
男性では、40～49歳、60歳以上で『男性が優遇』が40%以上を占め、概ね年齢が高くなると『男性が優遇』の意識が高くなる傾向がある。

女性では、30歳以上の年代で『男性が優遇』が50%以上を占め、18～29歳と比べ『男性が優遇』の意識が高くなっている。



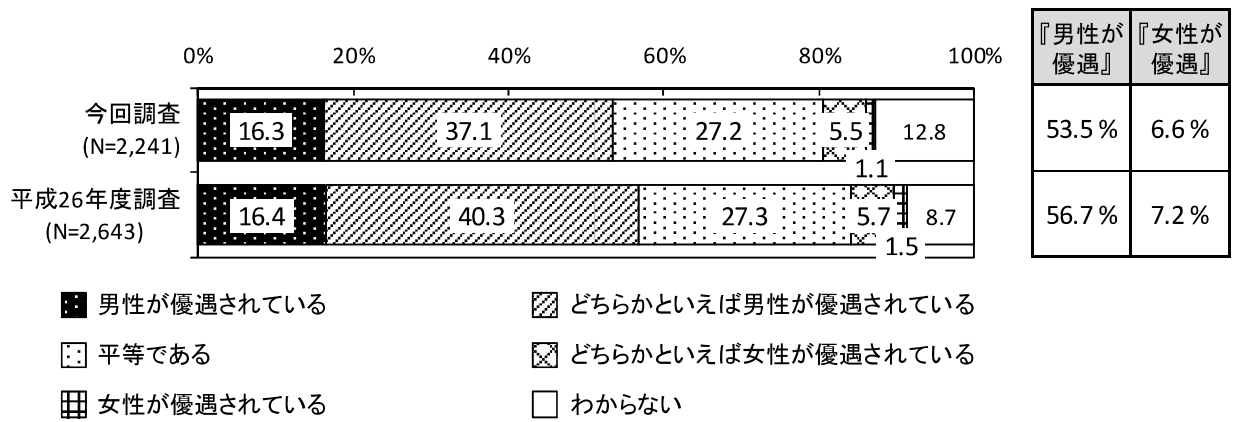
【地域別】（家庭生活で）

大津地域、東近江地域、湖東地域、湖北地域では、『男性が優遇』が 50%を上回っている。



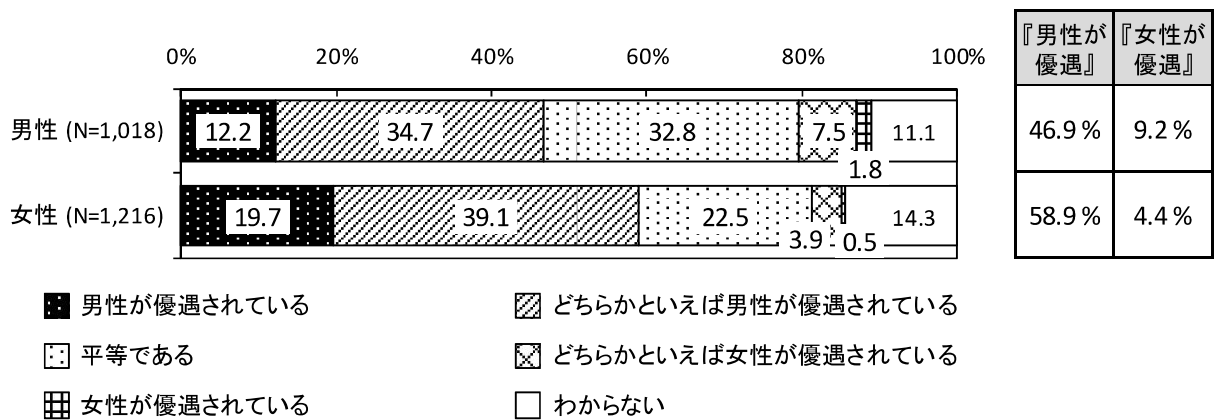
②職場の中で

職場の中での平等感は、平成 26 年度調査と比較して『男性が優遇』が 3.2 ポイント低下している。



【性別】（職場の中で）

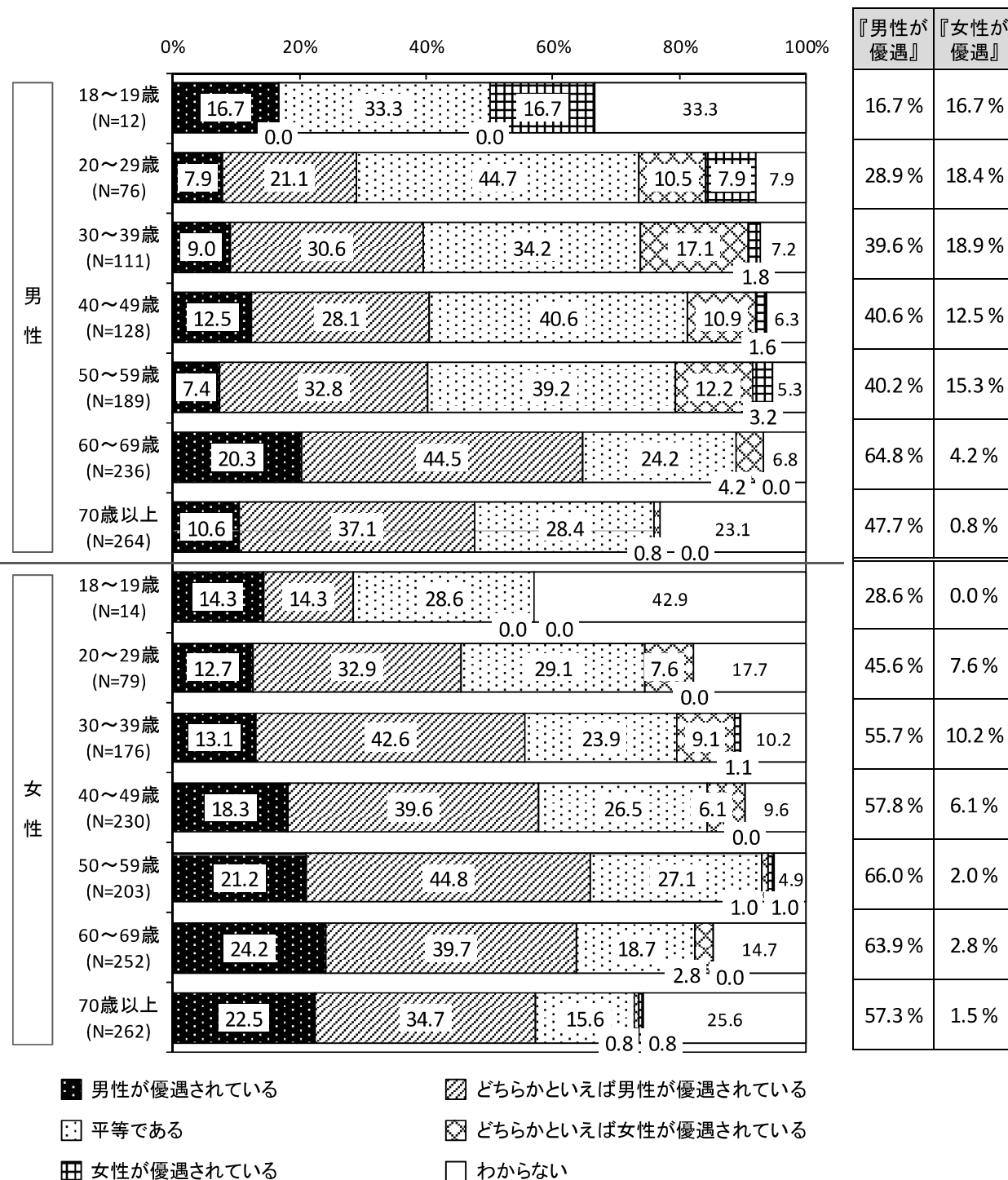
女性では『男性が優遇』が 58.9%と半数を超えており、男性の 46.9%を 12.0 ポイント上回っている。



【性・年代別】（職場の中で）

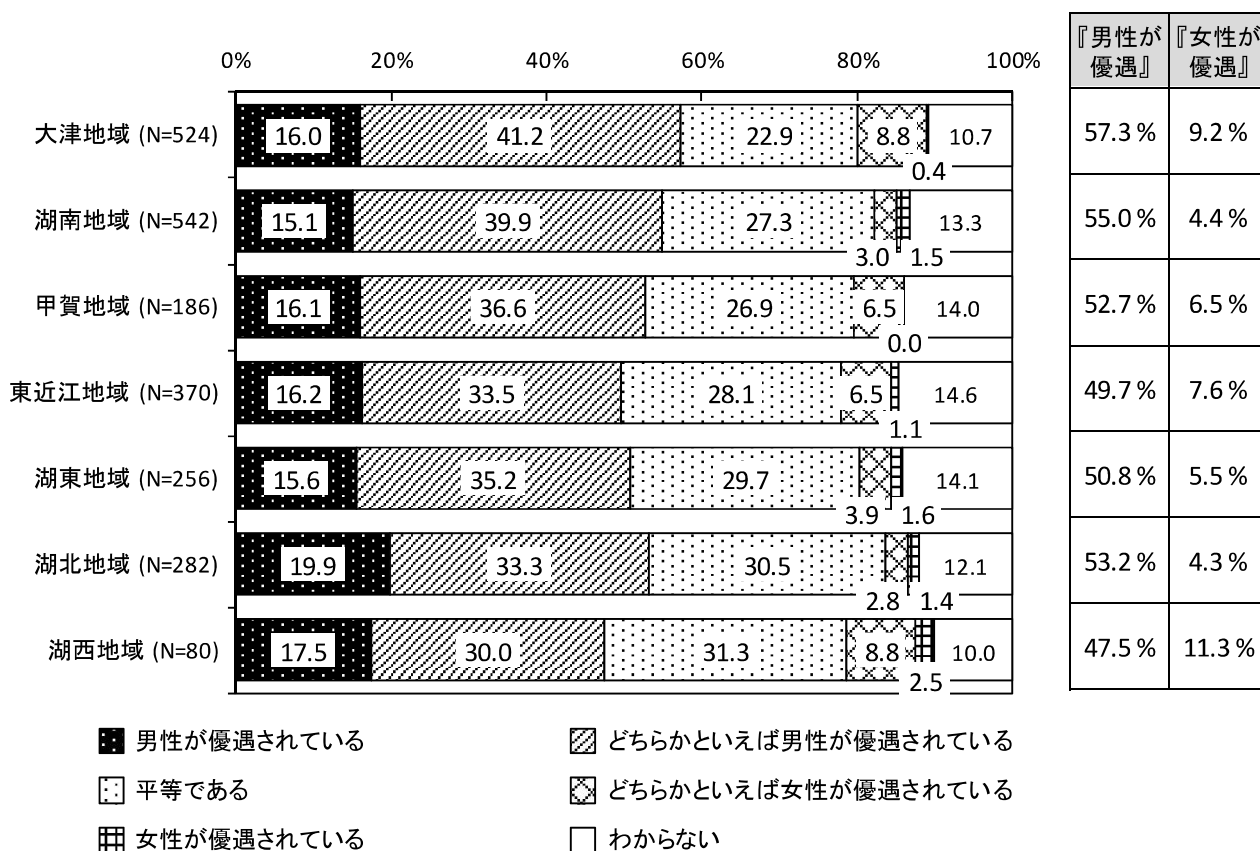
男性では、60～69歳で『男性が優遇』が64.8%と50%を超えている。

女性では、30歳以上の年代で『男性が優遇』が50%を超えており、特に、50～69歳ではその割合が60%以上と高くなっている。



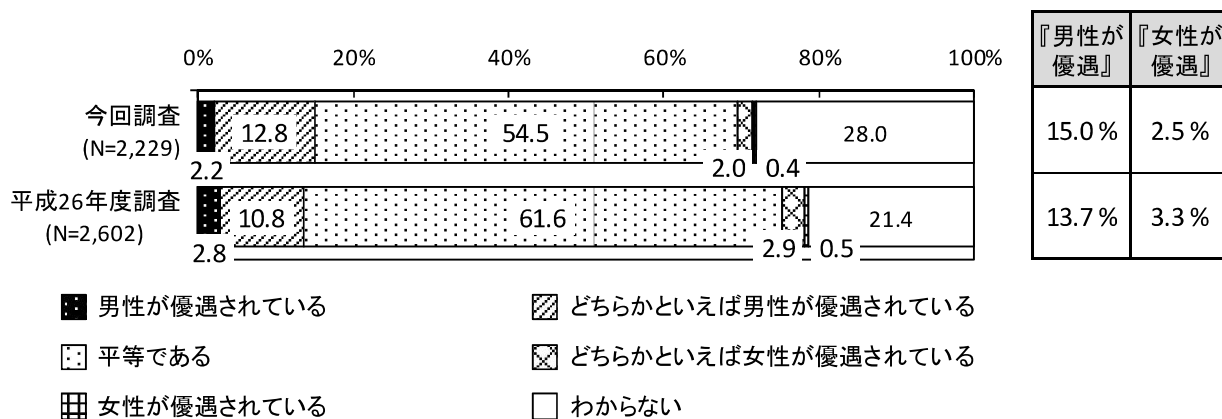
【地域別】（職場の中で）

大津地域、湖南地域、甲賀地域、湖東地域、湖北地域では、『男性が優遇』が50%を上回っている。



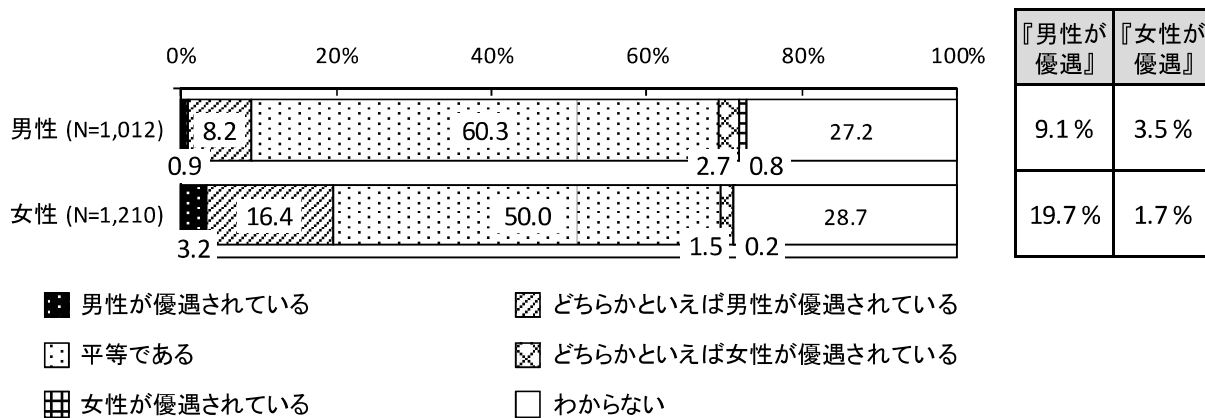
③学校教育の場で

学校教育の場での平等感は、「平等である」が54.5%で最も多く、平成26年度調査と比較して7.1ポイント低下している。



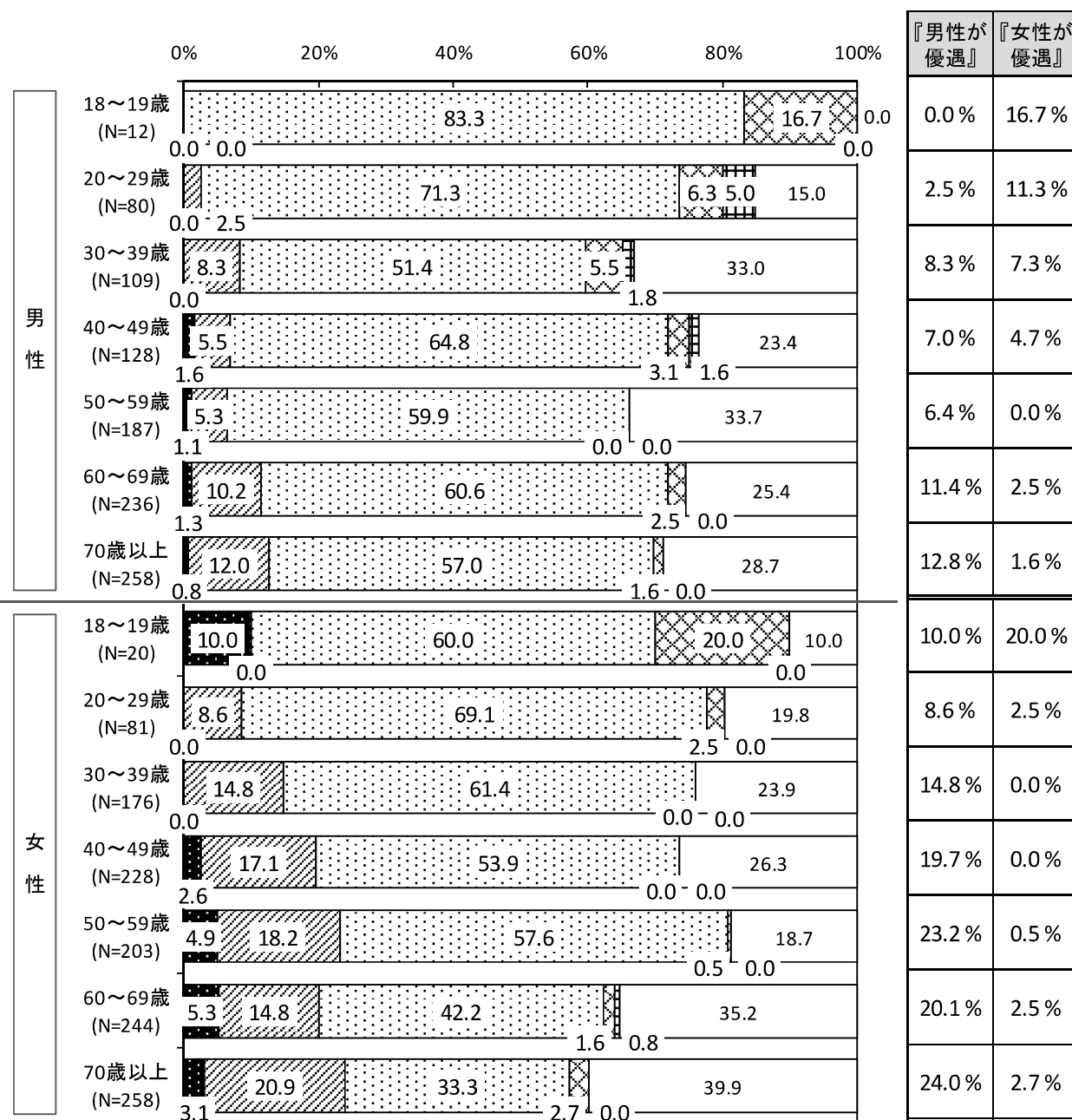
【性別】（学校教育の場で）

男性・女性いずれも「平等である」が50%を超えて最も多くなっているが、男性では、『男性が優遇』の割合が9.1%であるのに対し、女性では19.7%となっており、女性の方が10.6ポイント高くなっている。



【性・年代別】（学校教育の場で）

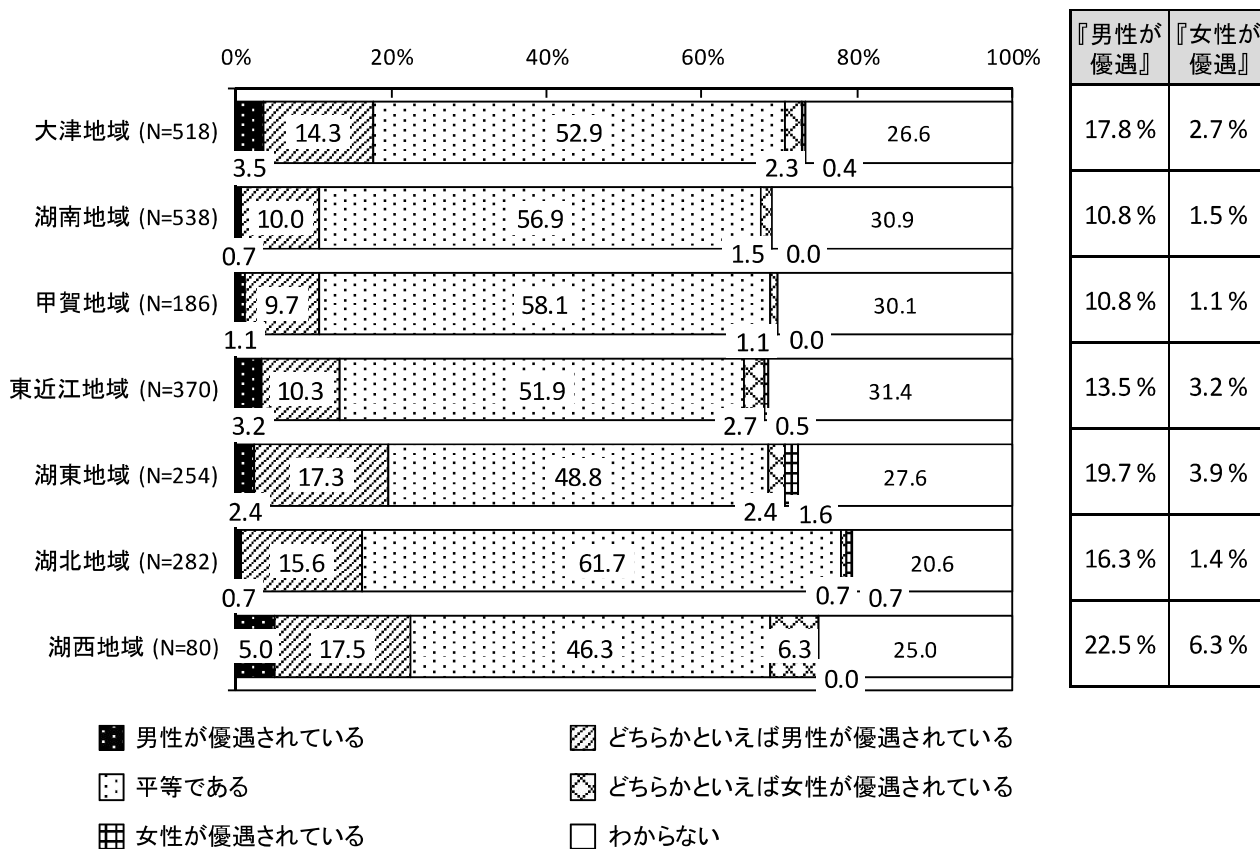
男性・女性とも、概ねどの年代（女性の60歳以上を除く）にあっても「平等である」が50%を超えている。



- 男性が優遇されている
- ▨ どちらかといえば男性が優遇されている
- 平等である
- ▩ どちらかといえば女性が優遇されている
- ▤ 女性が優遇されている
- わからない

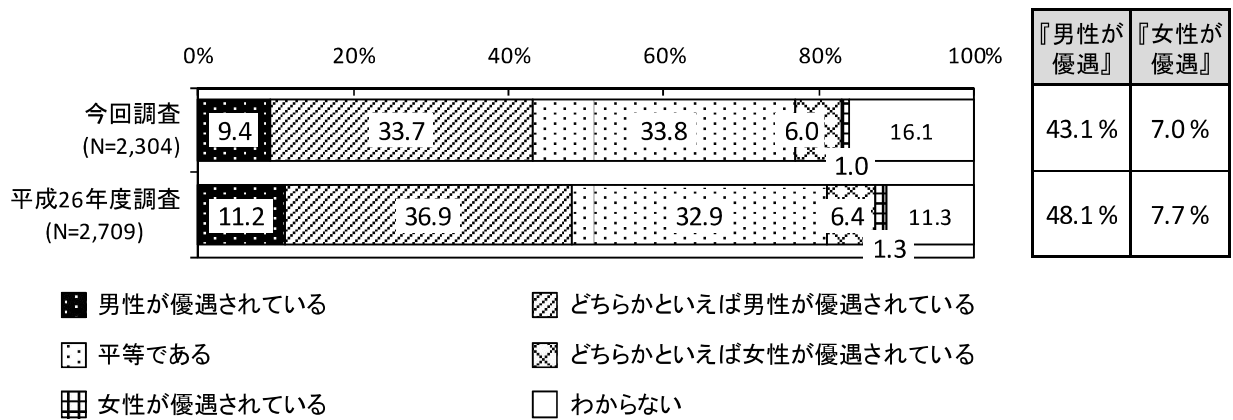
【地域別】（学校教育の場で）

どの地域にあっても「平等である」が多くなっている。



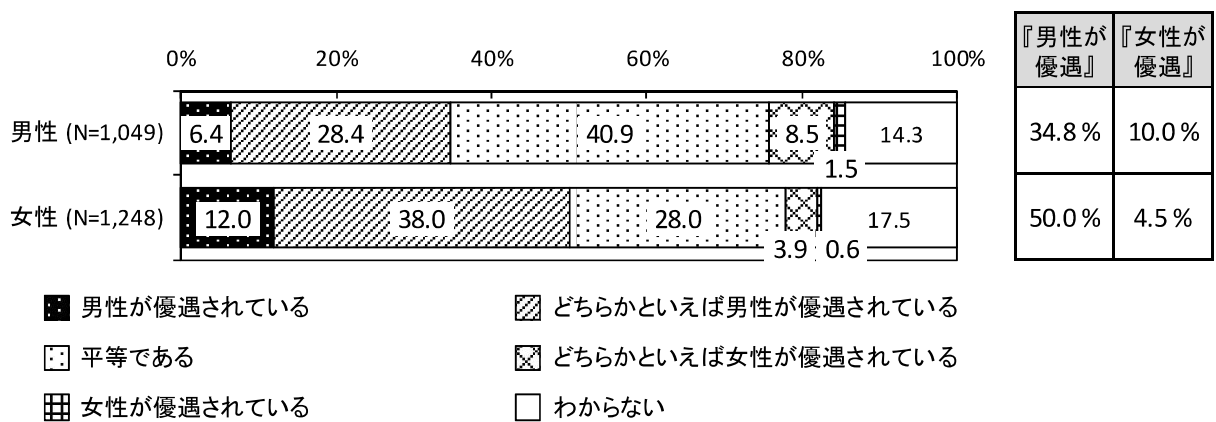
④地域活動の場で

地域活動の場での平等感は、平成26年度調査と比較して『男性が優遇』は5.0ポイント低下している。



【性別】（地域活動の場で）

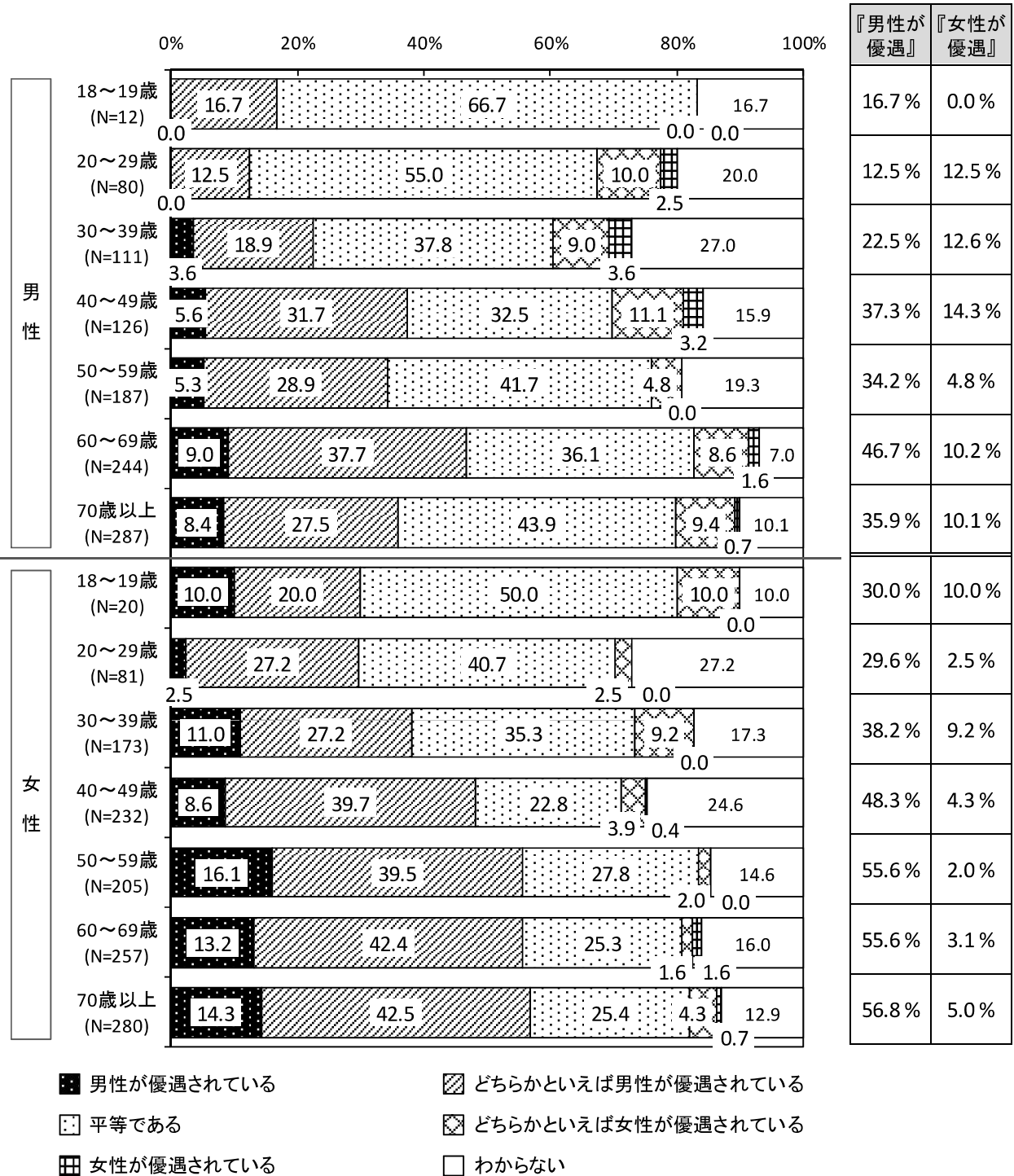
男性は「平等である」が40.9%で最も多いが、女性では『男性が優遇』の割合が50.0%を占め、男性の34.8%を15.2ポイント上回っている。



【性・年代別】（地域活動の場で）

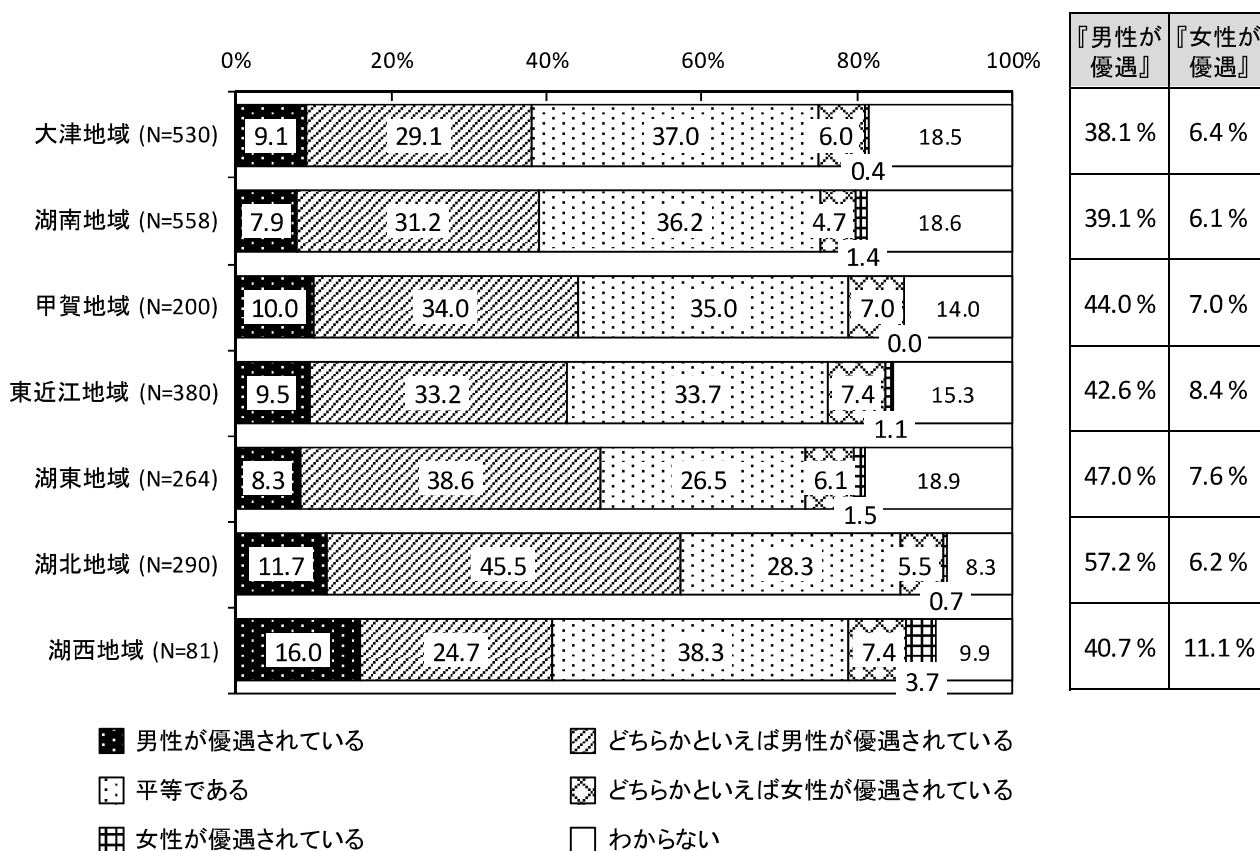
男性では、60～69歳で『男性が優遇』が46.7%と半数近くを占め、他の年代よりもその割合が高くなっている。

女性では、50歳以上の年代で『男性が優遇』が55%以上となっている。



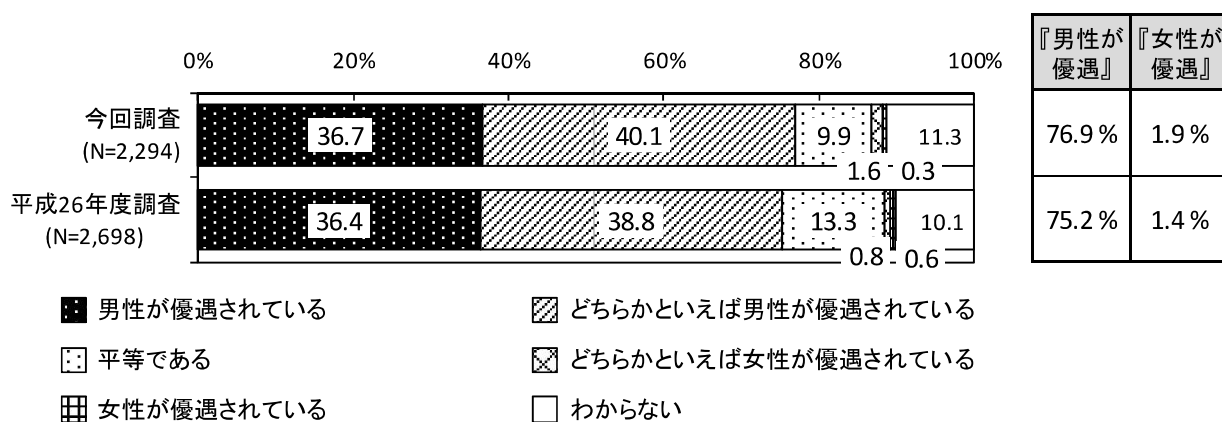
【地域別】（地域活動の場で）

湖北地域では『男性が優遇』が 57.2%と 50%を上回っており、他の地域よりもその割合が高くなっている。



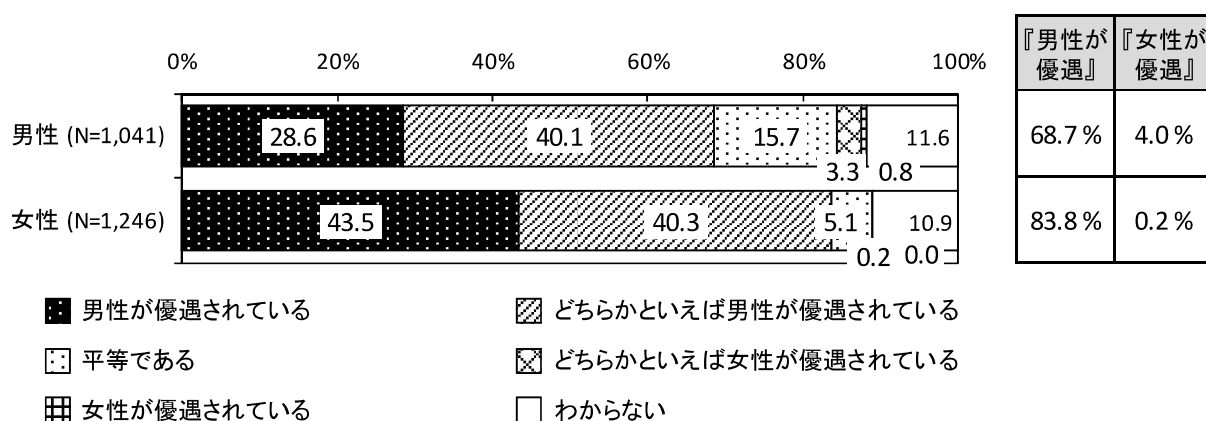
⑤政治の場で

政治の場での平等感は、平成 26 年度調査と比較して『男性が優遇』は 1.7 ポイント上昇し、「平等である」が 3.4 ポイント低下している。



【性別】（政治の場で）

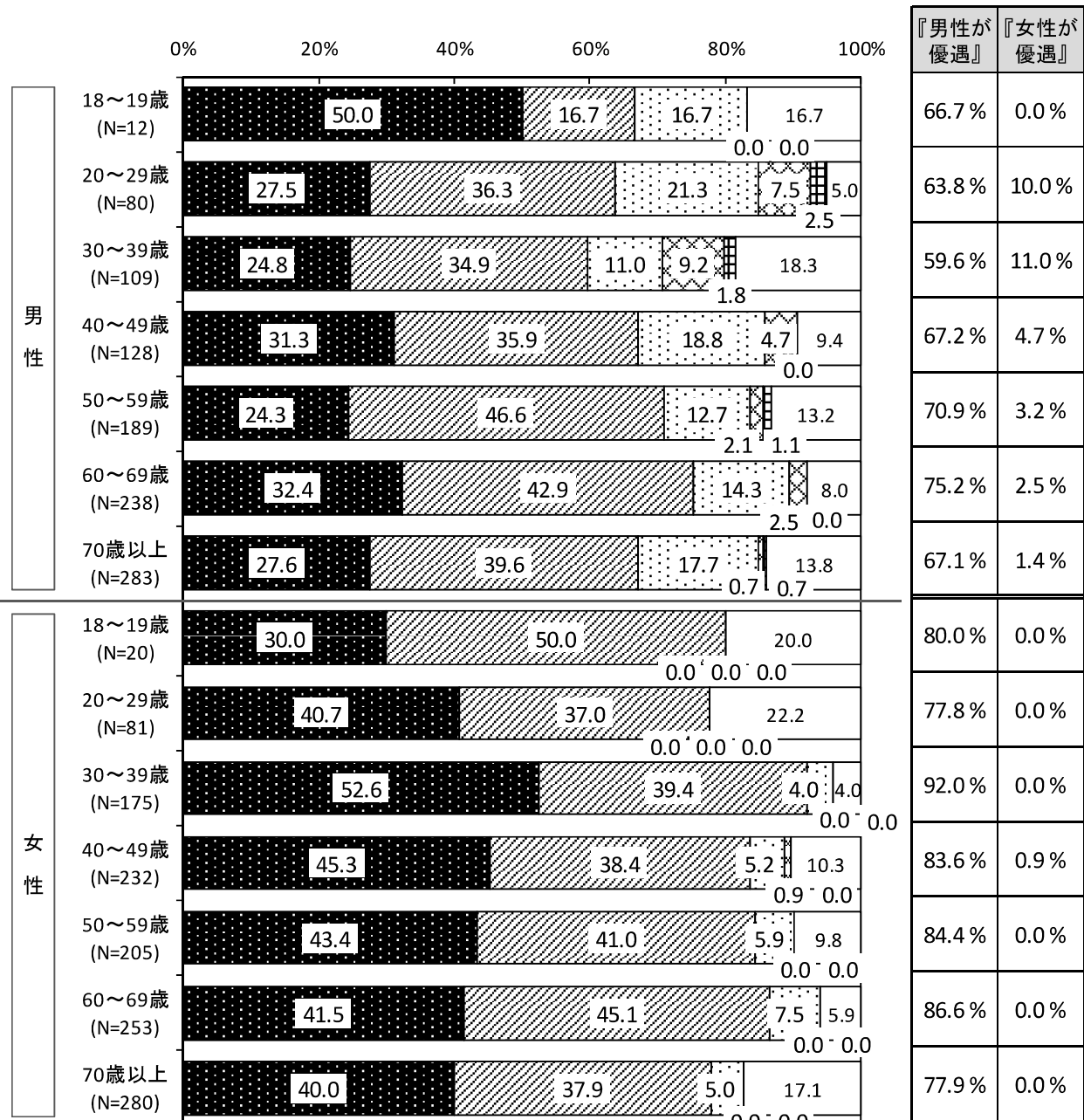
女性では『男性が優遇』の割合が 83.8%と高く、男性の 68.7%を 15.1 ポイント上回っている。



【性・年代別】（政治の場で）

男性では、どの年代においても『男性が優遇』がほぼ60%以上を占めており、特に、50～69歳では70%を超えている。

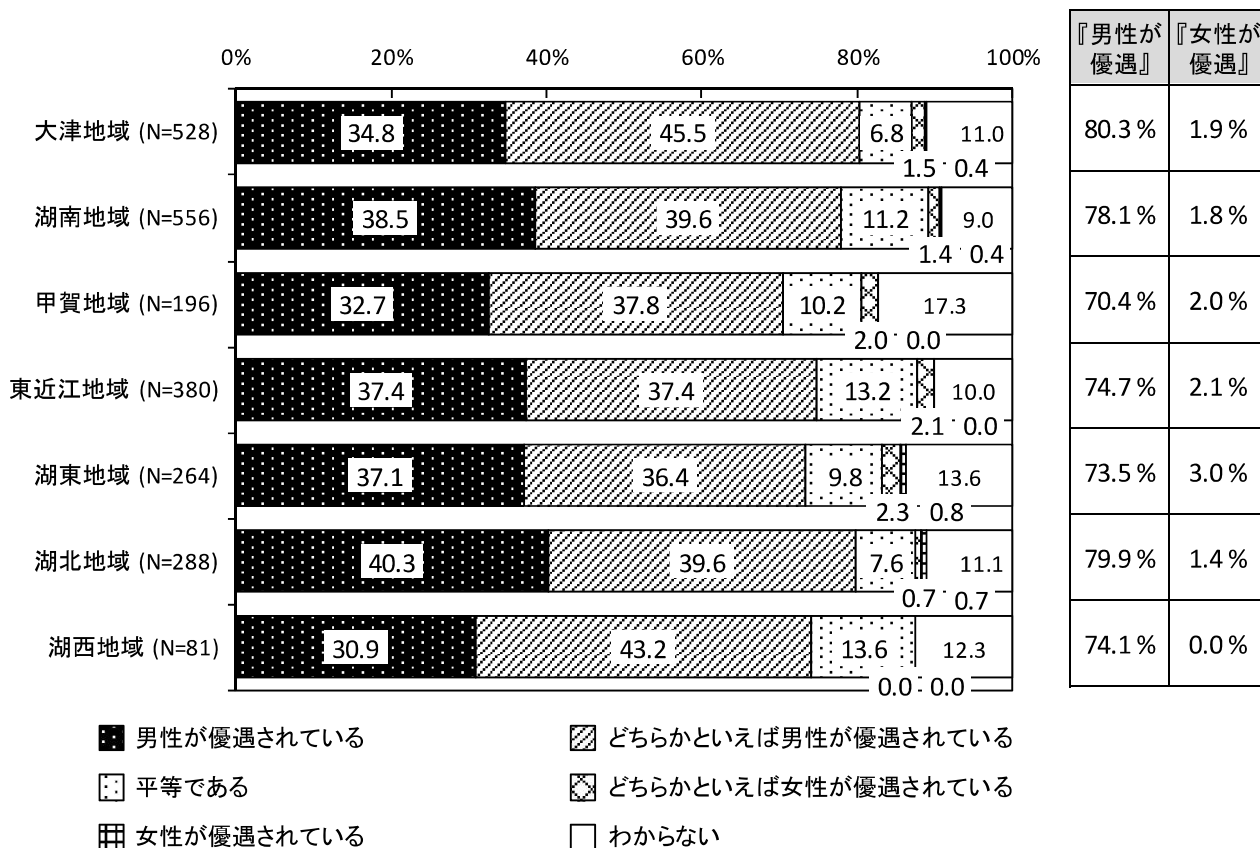
女性では、どの年代においても『男性が優遇』が75%以上を占めており、特に、30～39歳では92.0%、60～69歳では86.6%とその割合がかなり高くなっている。



- 男性が優遇されている
- ▨ どちらかといえば男性が優遇されている
- ⋯ 平等である
- ⊠ どちらかといえば女性が優遇されている
- ▤ 女性が優遇されている
- わからない

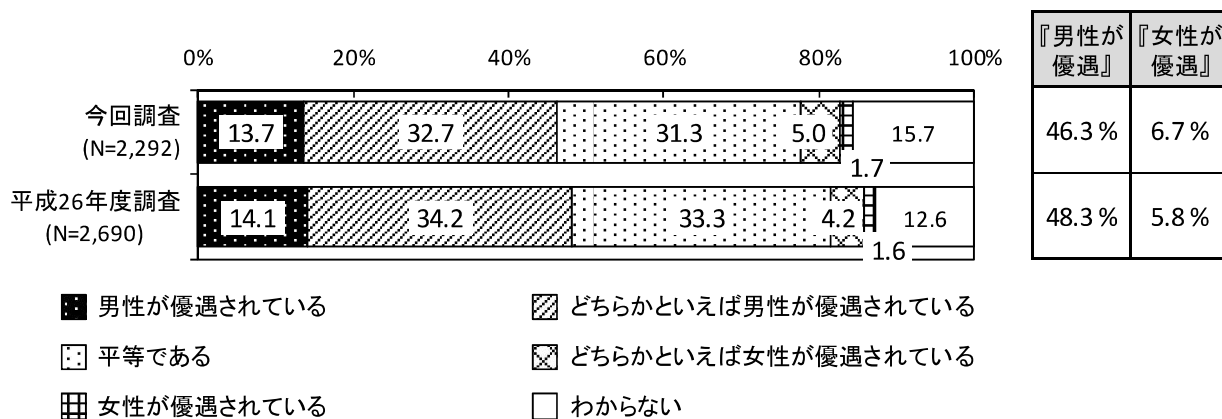
【地域別】（政治の場で）

どの地域においても『男性が優遇』が 70%を超えているが、特に、大津地域では 80.3%、湖北地域では 79.9%、湖南地域では 78.1%とその割合が高くなっている。



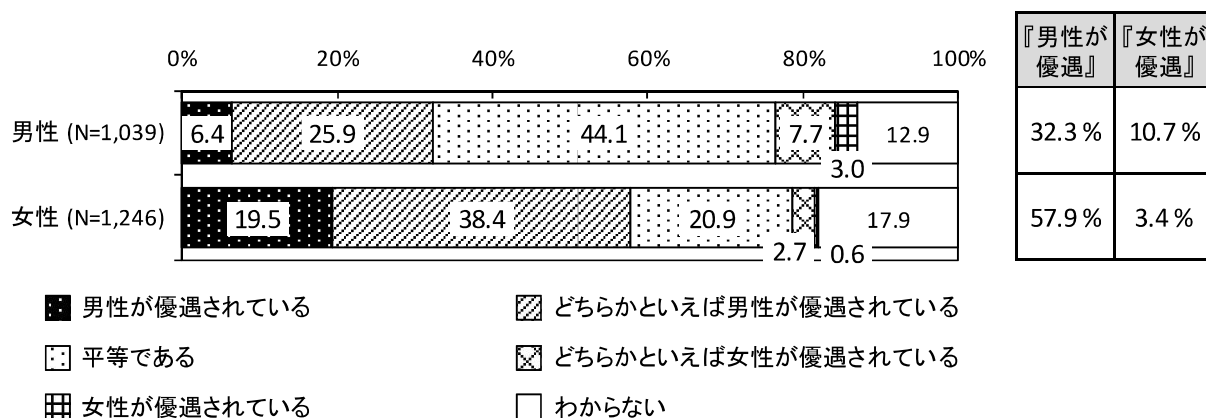
⑥法律や制度の上で

法律や制度の上での平等感は、平成26年度調査と比較して『男性が優遇』は2.0ポイント低下しており、「平等である」も2.0ポイント低下している。



【性別】（法律や制度の上で）

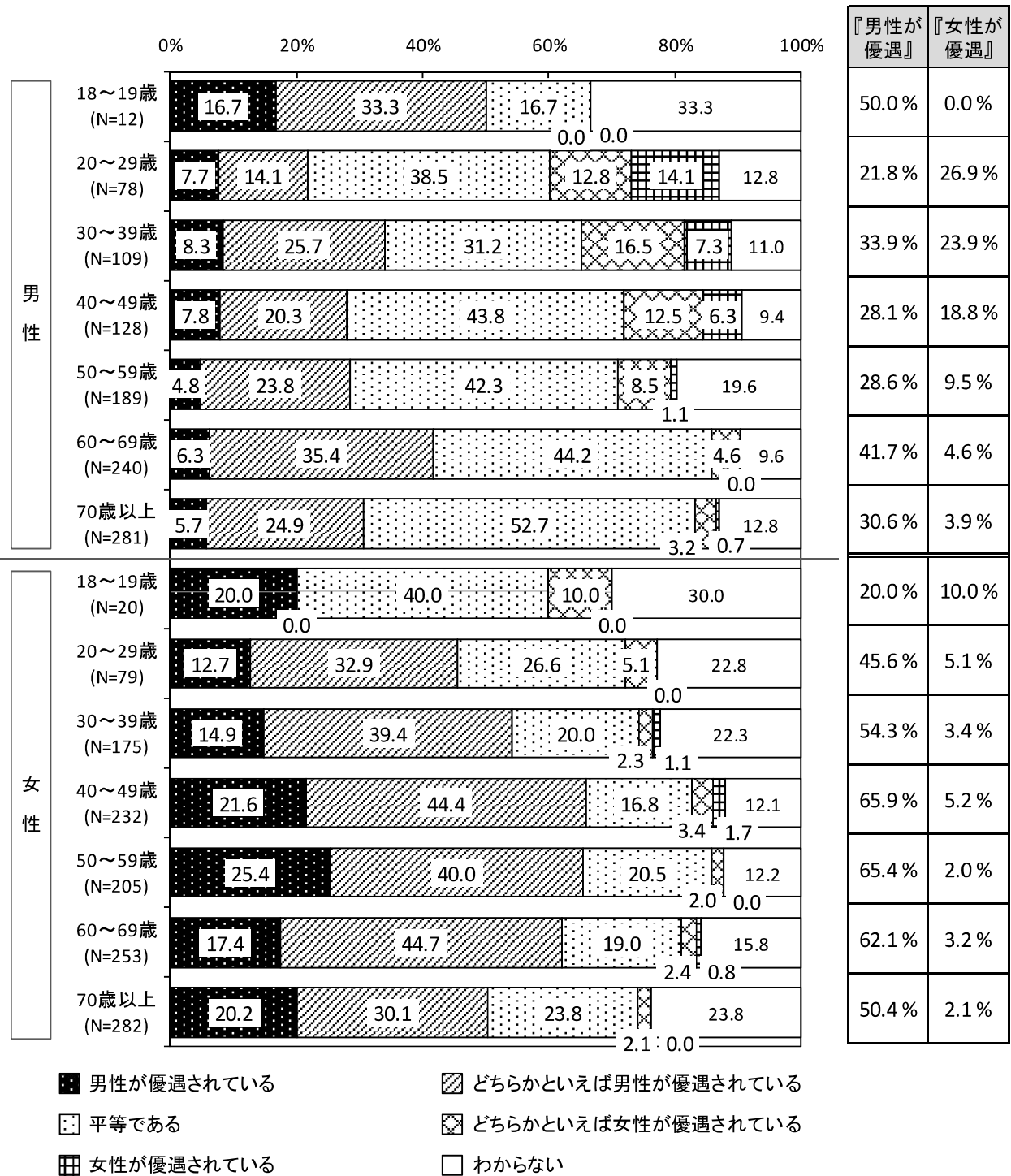
女性では『男性が優遇』の割合が57.9%と高く、男性の32.3%を25.6ポイント上回っている。男性では「平等である」が44.1%を占め最も多くなっている。



【性・年代別】（法律や制度の上で）

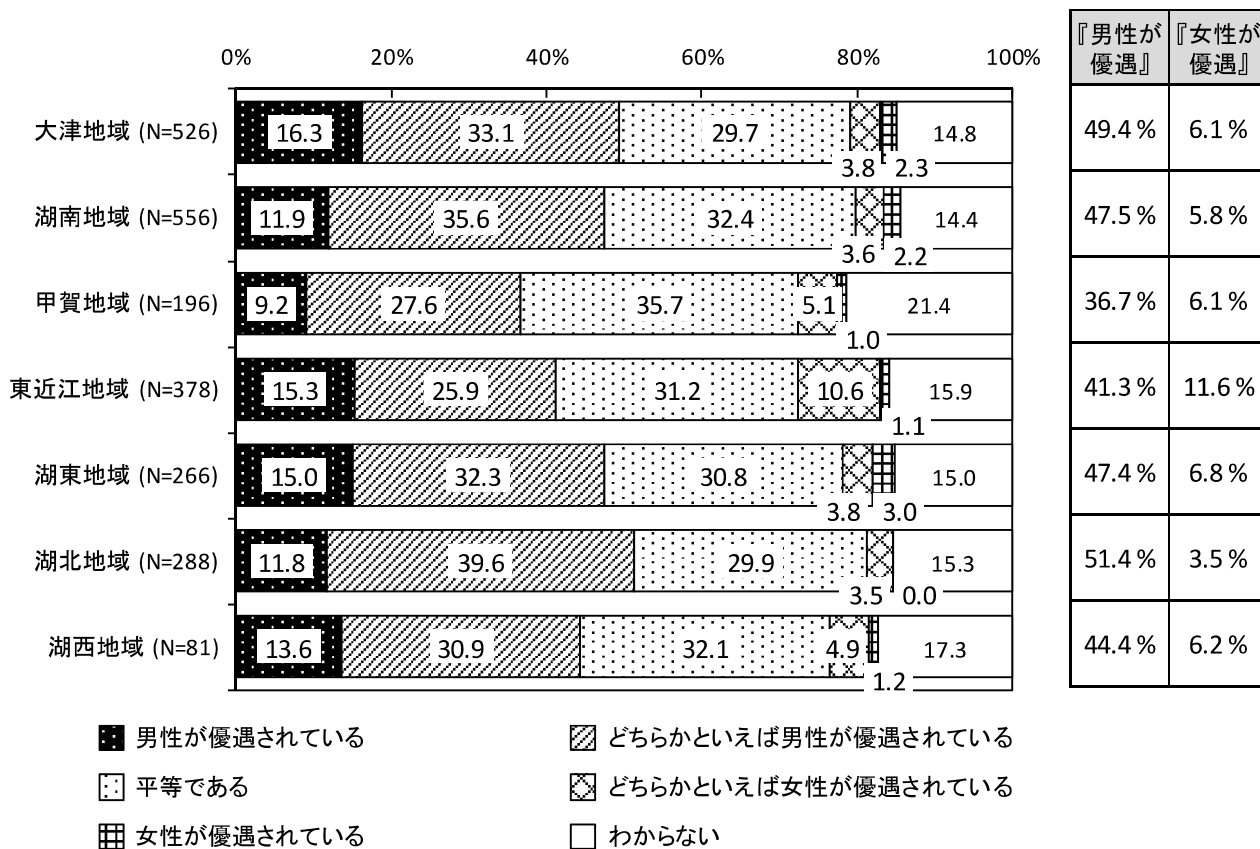
男性では、18～19歳を除く年代においては「平等である」が30%を超えて多く、『男性が優遇』の割合は、18～19歳で50.0%、60～69歳で41.7%と高くなっている。

女性では、30歳以上の年代で『男性が優遇』が50%を超えており、特に、40～49歳では65.9%、50～59歳では65.4%、60～69歳では62.1%とその割合が高くなっている。



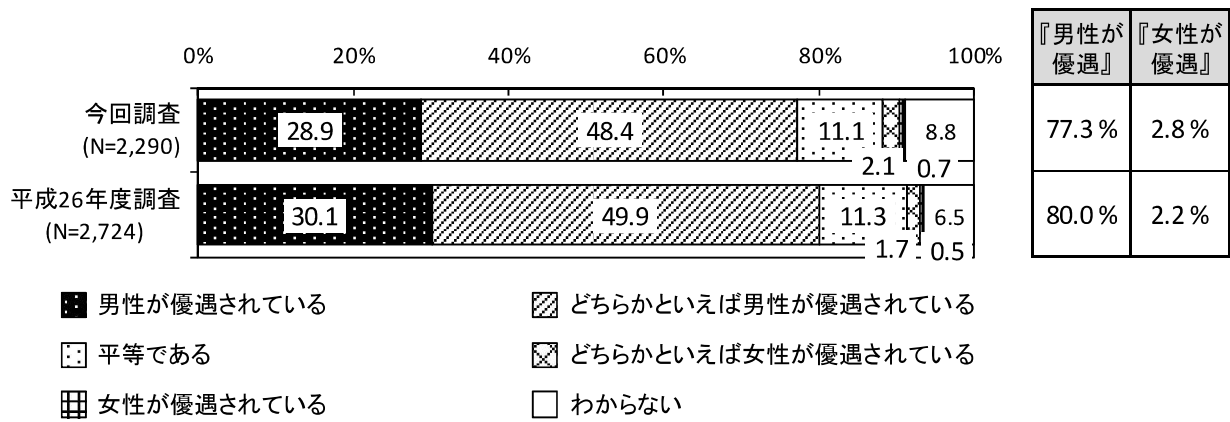
【地域別】（法律や制度の上で）

湖北地域で『男性が優遇』が 51.4%と 50%を超えている。



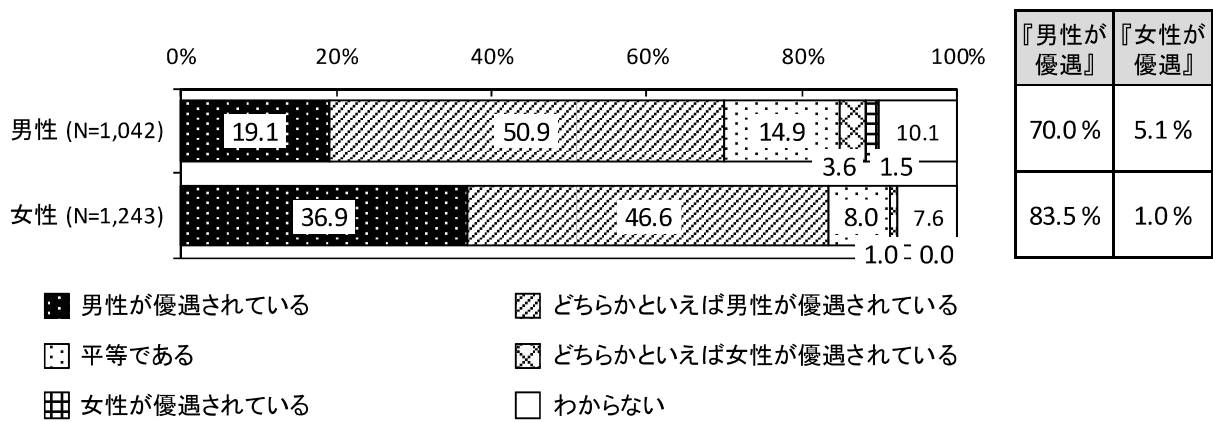
⑦社会通念・慣習・しきたりなど

社会通念・慣習・しきたりなどでの平等感は、平成 26 年度調査と比較して『男性が優遇』は 2.7 ポイント低下している。



【性別】（社会通念・慣習・しきたりなど）

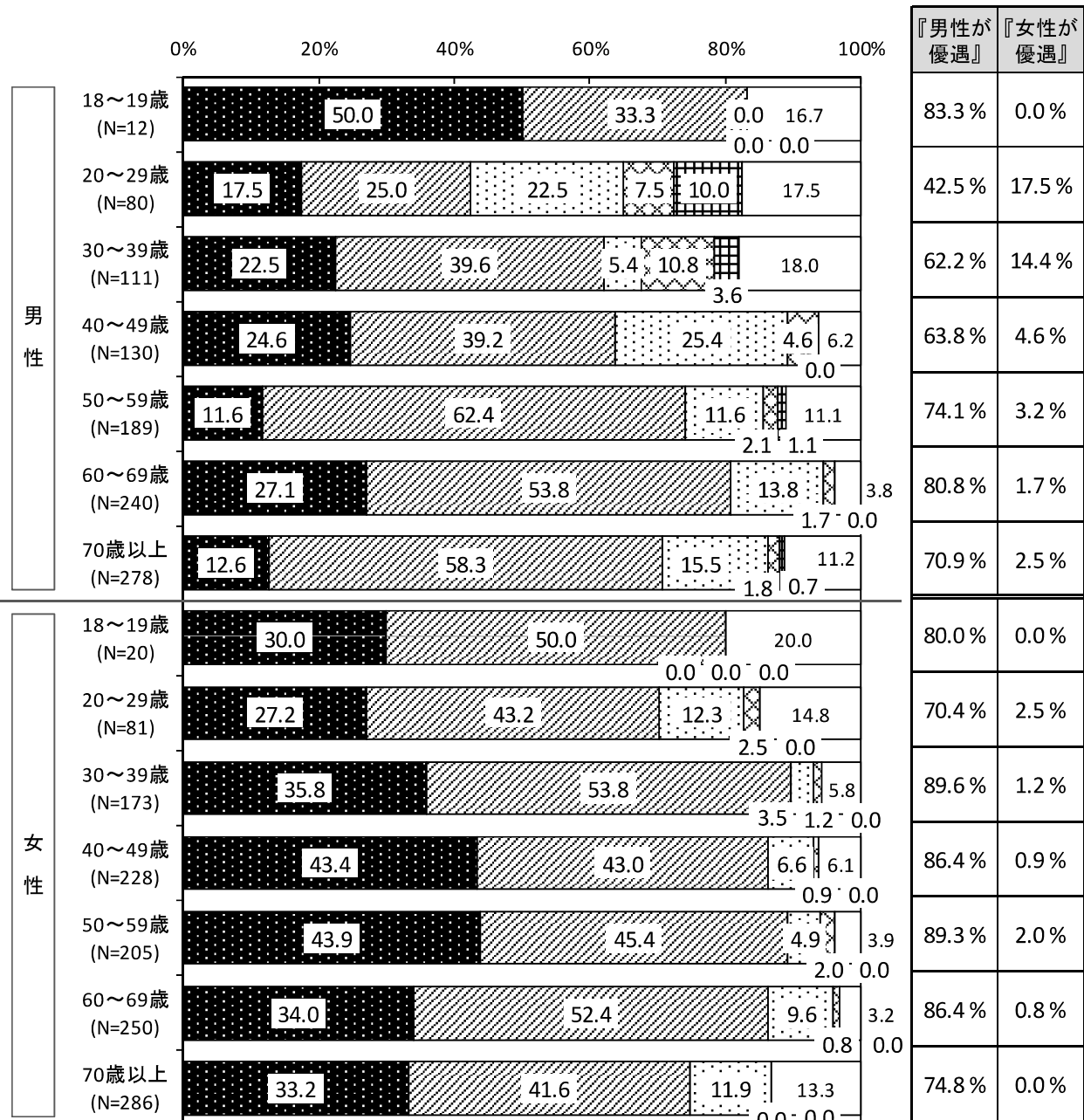
女性では『男性が優遇』の割合が 83.5%と高く、男性の 70.0%を 13.5 ポイント上回っている。



【性・年代別】（社会通念・慣習・しきたりなど）

男性では、20～29歳を除く年代においては、『男性が優遇』が60%を超えており、特に、18～19歳では83.3%、60～69歳では80.8%とその割合が高くなっている。

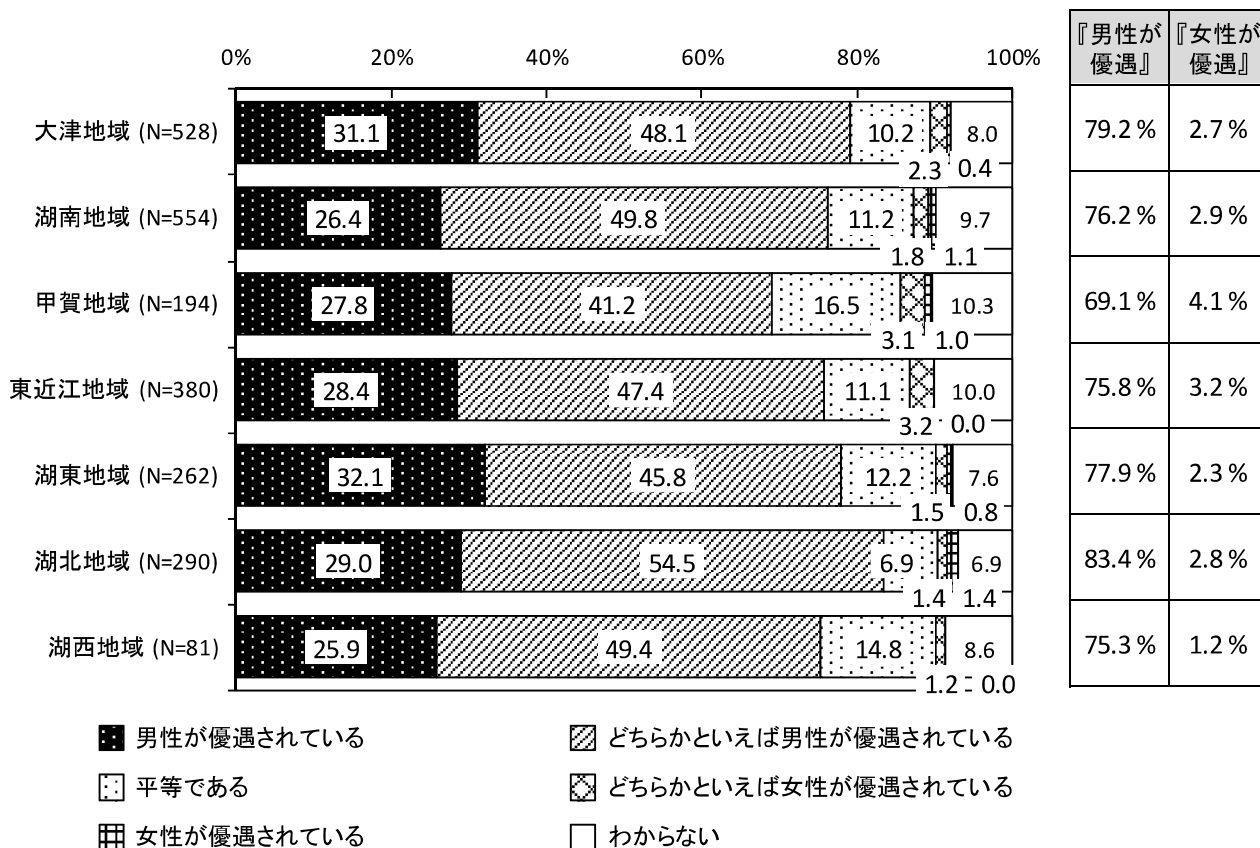
女性では、どの年代でも『男性が優遇』が70%を超えており、特に、30～39歳では89.6%、50～59歳では89.3%とその割合が高くなっている。



- 男性が優遇されている
- ▨ どちらかといえば男性が優遇されている
- 平等である
- ▩ どちらかといえば女性が優遇されている
- ▤ 女性が優遇されている
- わからない

【地域別】（社会通念・慣習・しきたりなど）

どの地域においても『男性が優遇』が概ね 70%以上となっているが、特に、湖北地域では 83.4%とその割合が高くなっている。

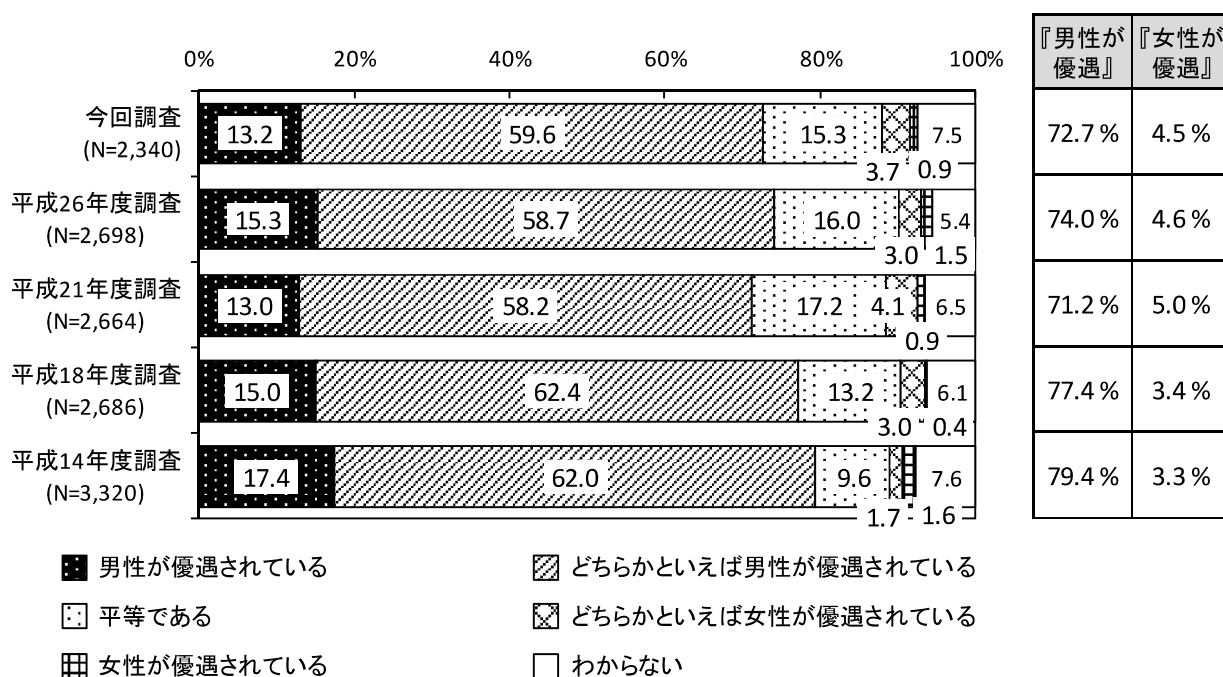


⑧社会全体でみて

社会全体でみての平等感は、平成 26 年度調査と比較して『男性が優遇』は 1.3 ポイント低下している。

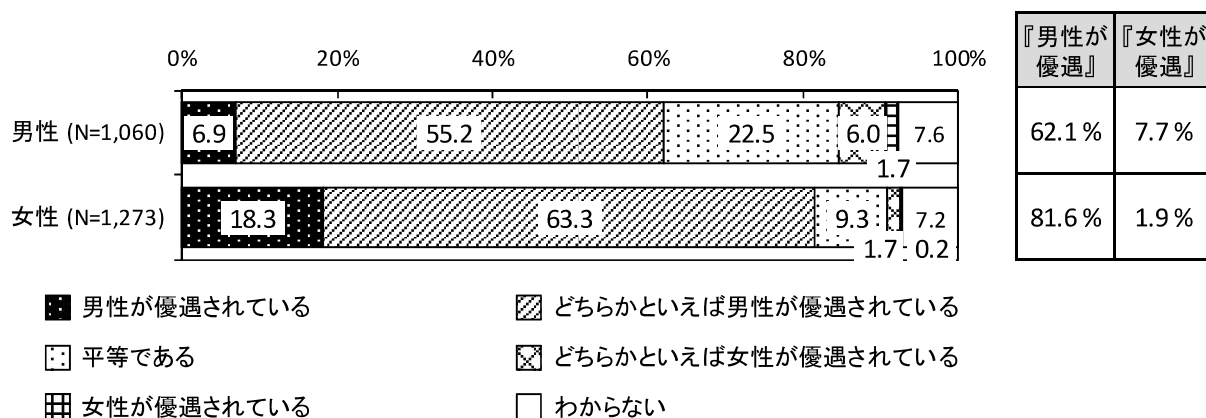
平成 21 年度調査との比較では『男性が優遇』が 1.5 ポイント上昇、「平等である」が 1.9 ポイント低下、また、平成 18 年度調査との比較では『男性が優遇』が 4.7 ポイント低下、「平等である」が 2.1 ポイント上昇している。さらに平成 14 年度との比較では、『男性が優遇』が 6.7 ポイント低下、「平等である」が 5.7 ポイント上昇している。

比較年度により比率の増減に違いがあるものの、全体的にみると『男性が優遇』の比率は平成 21 年度調査まで低下傾向にあり、その後は 70%前半の比率で増減を繰り返している状況にある。



【性別】(社会全体でみて)

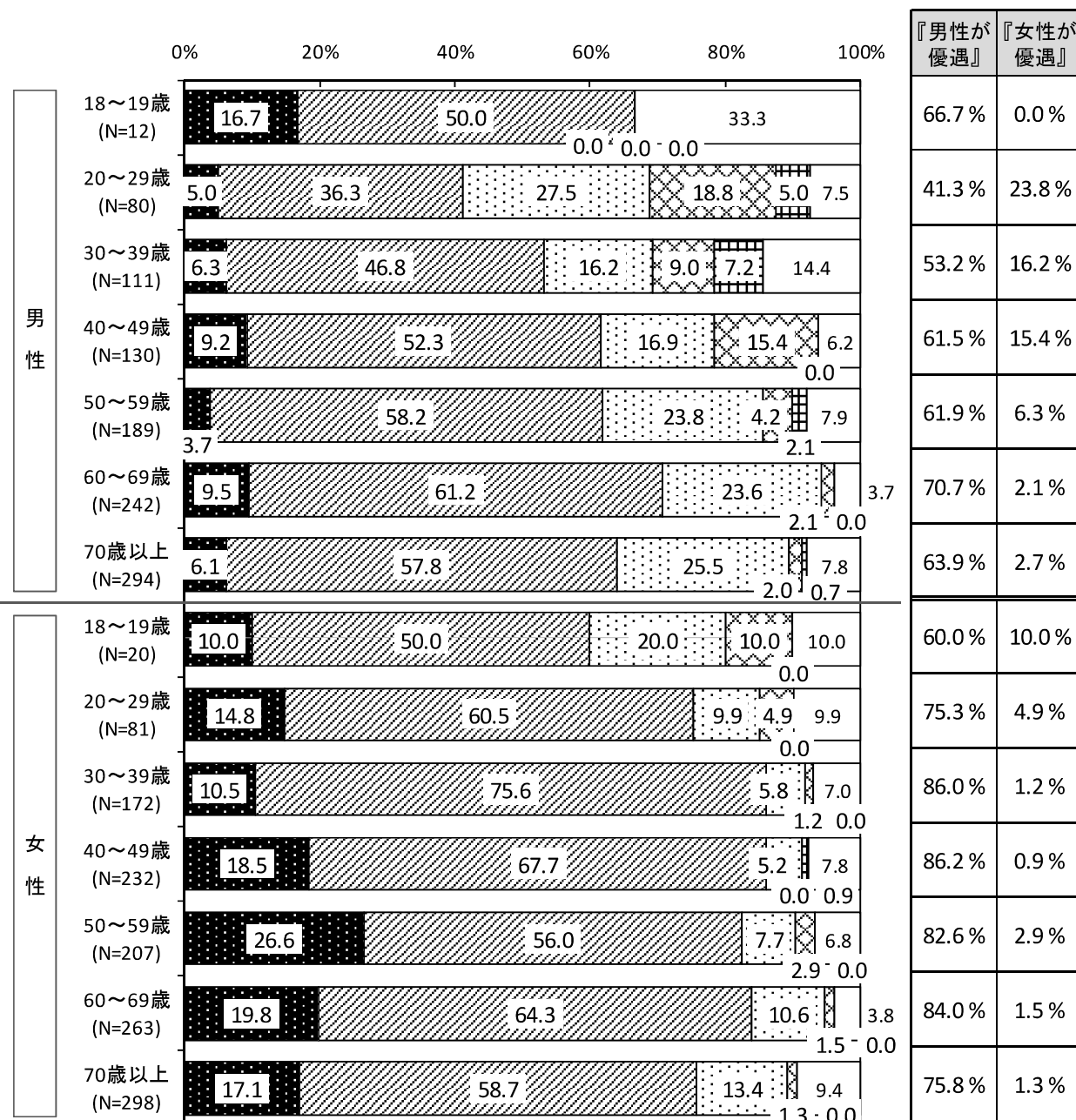
女性では『男性が優遇』の割合が 81.6%と高く、男性の 62.1%を 19.5 ポイント上回っている。



【性・年代別】（社会全体でみて）

男性では、20～29歳を除く年代においては『男性が優遇』が50%を超えており、特に、60～69歳では70.7%とその割合が高くなっている。

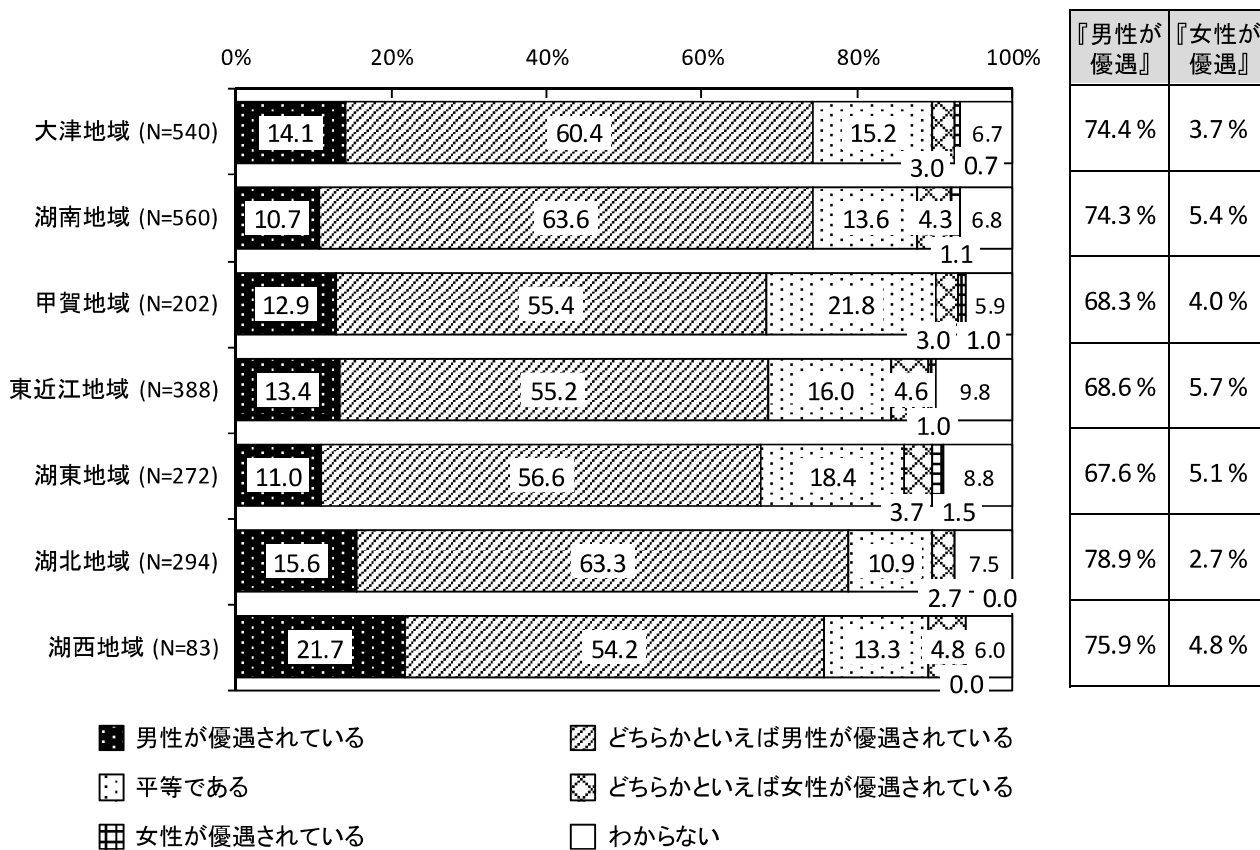
女性では、どの年代でも『男性が優遇』が60%以上であり、特に、40～49歳では86.2%、30～39歳では86.0%とその割合が高くなっている。



- 男性が優遇されている
- ▨ どちらかといえば男性が優遇されている
- 平等である
- ▩ どちらかといえば女性が優遇されている
- ▤ 女性が優遇されている
- わからない

【地域別】（社会全体でみて）

どの地域においても『男性が優遇』が65%以上であり、特に、湖北地域では78.9%とその割合が高くなっている。

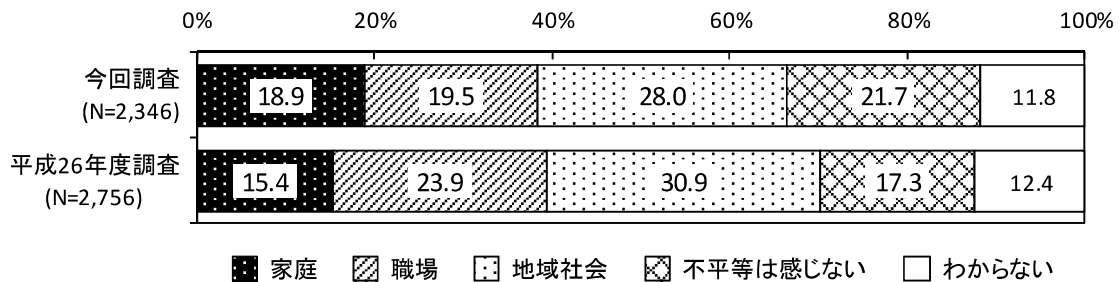


(2) 日常生活の中で男女の不平等を一番感じるところ

問8 日常生活の中でご自身の実感として、男女の不平等を一番感じるところはどこですか。番号を1つだけ選んでください。

●「地域社会」が最も多い

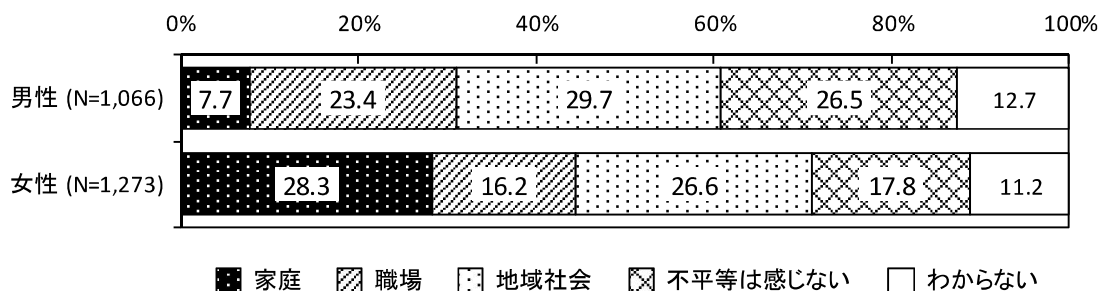
日常生活の中で男女の不平等を一番感じる場所は、「地域社会」が最も多く 28.0% となっており、平成 26 年度調査と比較して 2.9 ポイント低下している。また、「不公平は感じない」は 21.7% であり、4.4 ポイント上昇している。



【性別】

男性では、「地域社会」(29.7%)、「不公平は感じない」(26.5%)、「職場」(23.4%)の順となっており、女性では、「家庭」(28.3%)、「地域社会」(26.6%)、「不公平は感じない」(17.8%)の順となっている。

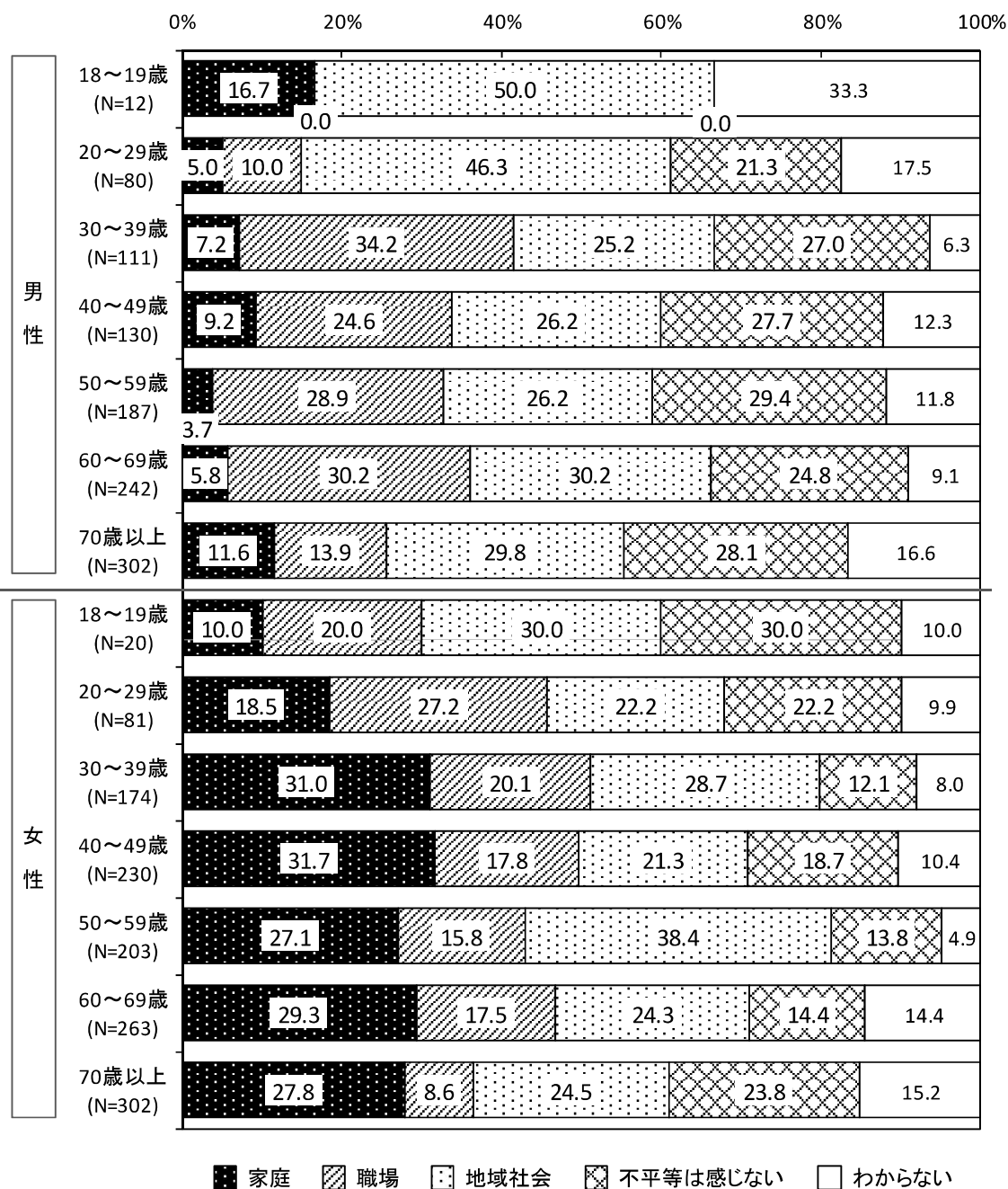
男性・女性で特に不公平感の差が多いものは「家庭」であり、男性が7.7%しか感じていないのに対し、女性は28.3%が感じるとしており、その差は20.6ポイントと大きくなっている。



【性・年代別】

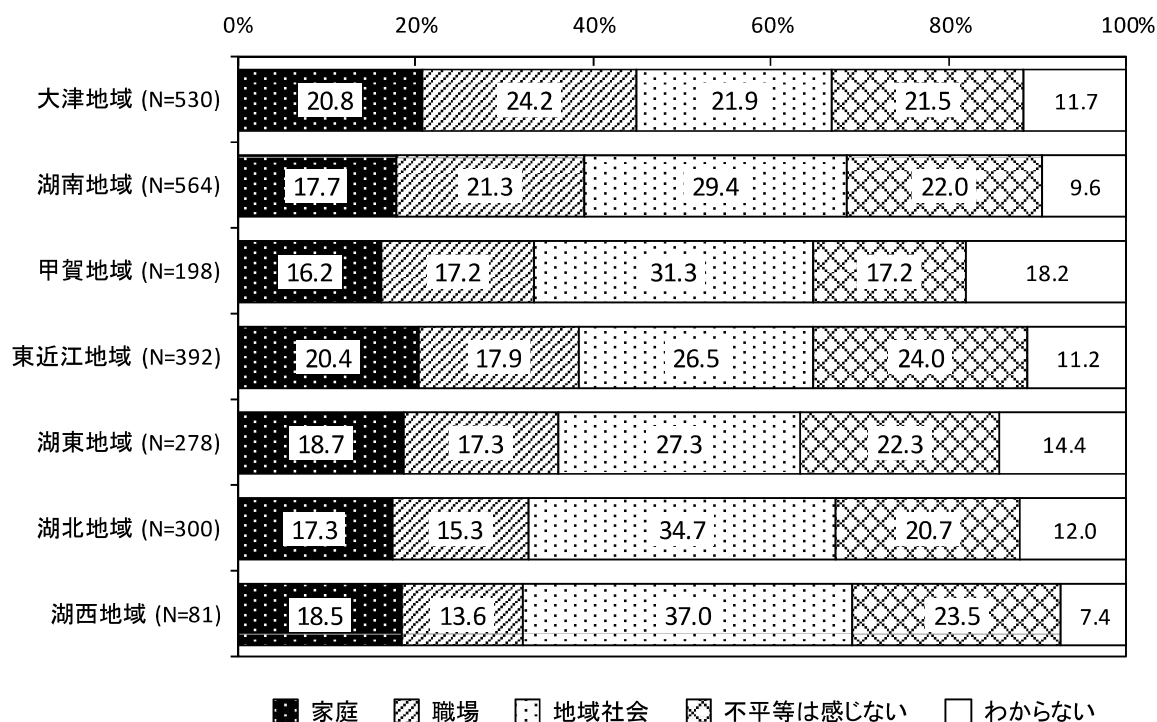
男性では、18～29歳で「地域社会」、30～39歳で「職場」が最も多い。また、60～69歳では「地域社会」と「職場」が30.2%で同率となっている。一方、40～59歳では「不公平は感じない」が最も多くなっている。

女性では、30～49歳、60歳以上で「家庭」が最も多い。また、20～29歳では「職場」、50～59歳では「地域社会」が最も多くなっている。



【地域別】

大津地域では「職場」が24.2%で最も多く、その他の地域では「地域社会」が概ね27～37%の割合を占めて最も多くなっている。



(3) 「男性は仕事をし、女性は家庭を守るべき」という考え方

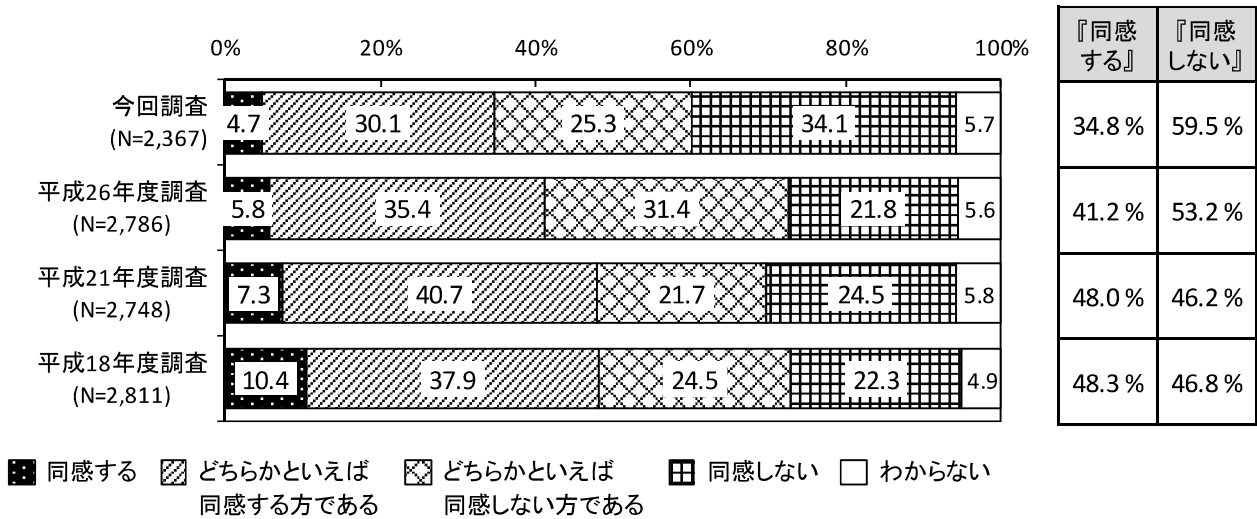
問9 「男性は仕事をし、女性は家庭を守るべき」という考え方がありますが、あなたの考え方に最も近いものの番号を、1つだけ選んでください。

● 「男性は仕事をし、女性は家庭を守るべき」という考え方に『同感しない』は 59.5%

「男性は仕事をし、女性は家庭を守るべき」という考え方について、『同感する』（「同感する」と「どちらかといえば同感する方である」の合計）は 34.8% で、平成 26 年度調査と比較して 6.4 ポイント低下している。『同感しない』（「同感しない」と「どちらかといえば同感しない方である」の合計）は 59.5% で、6.3 ポイント上昇している。

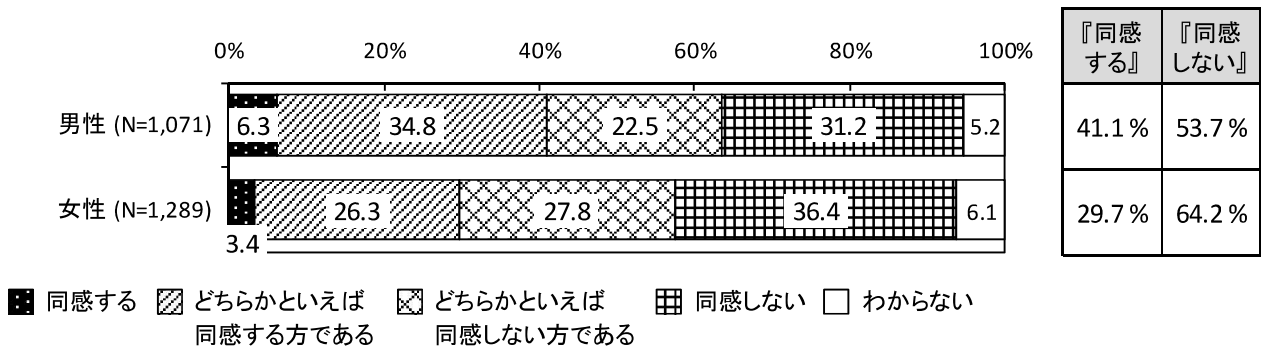
平成 21 年度調査との比較では『同感する』が 13.2 ポイント低下、『同感しない』が 13.3 ポイント上昇、また、平成 18 年度調査との比較では『同感する』が 13.5 ポイント低下、『同感しない』が 12.7 ポイント上昇している。

全体的にみると『同感する』の比率は低下傾向が続いている。



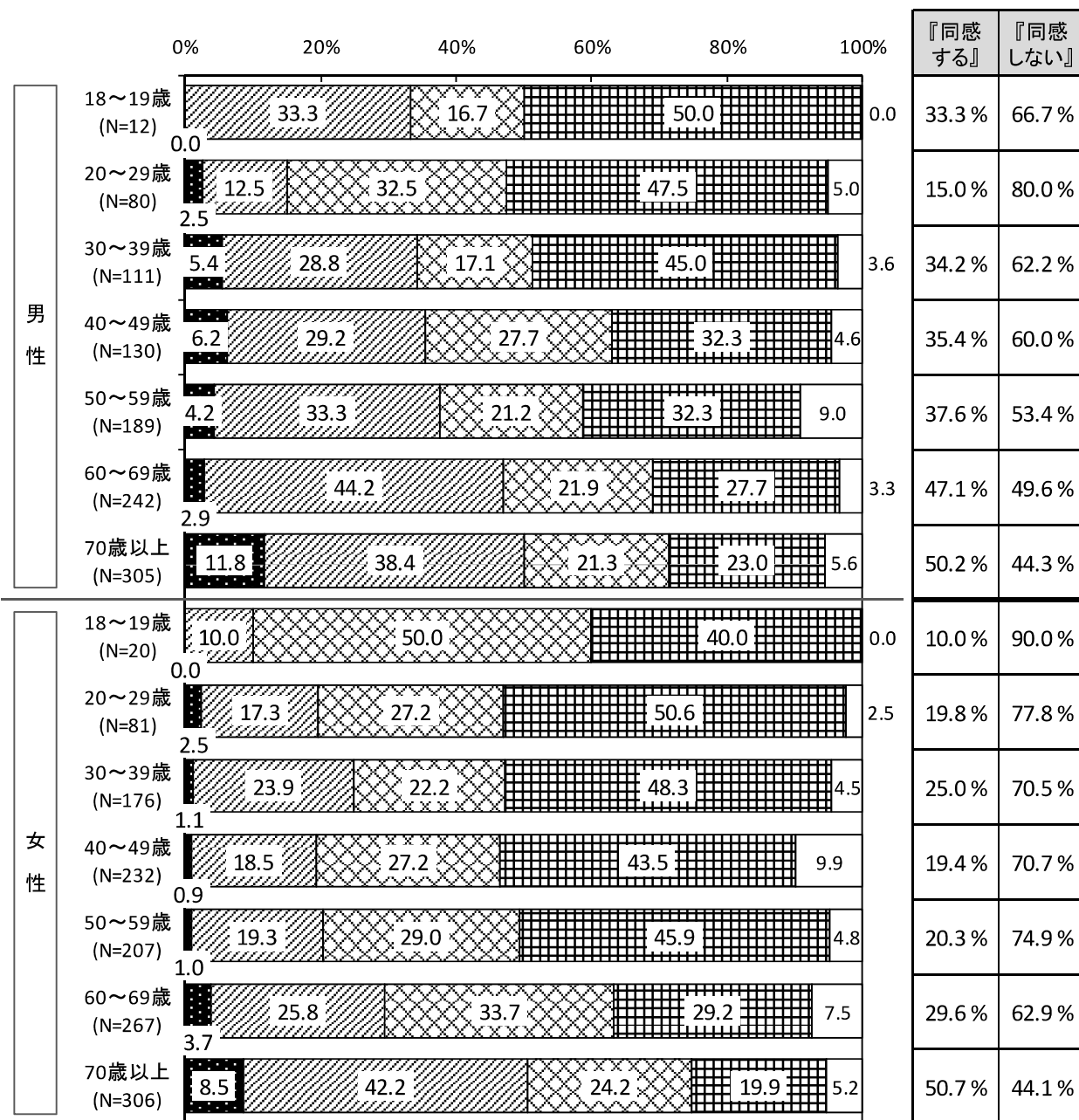
【性別】

男性では『同感する』が 41.1%、『同感しない』が 53.7%、女性では『同感する』が 29.7%、『同感しない』が 64.2% となっており、男性・女性ともに『同感しない』が『同感する』を上回っている。『同感する』の割合は、男性の方が女性よりも 11.4 ポイント高くなっている。



【性・年代別】

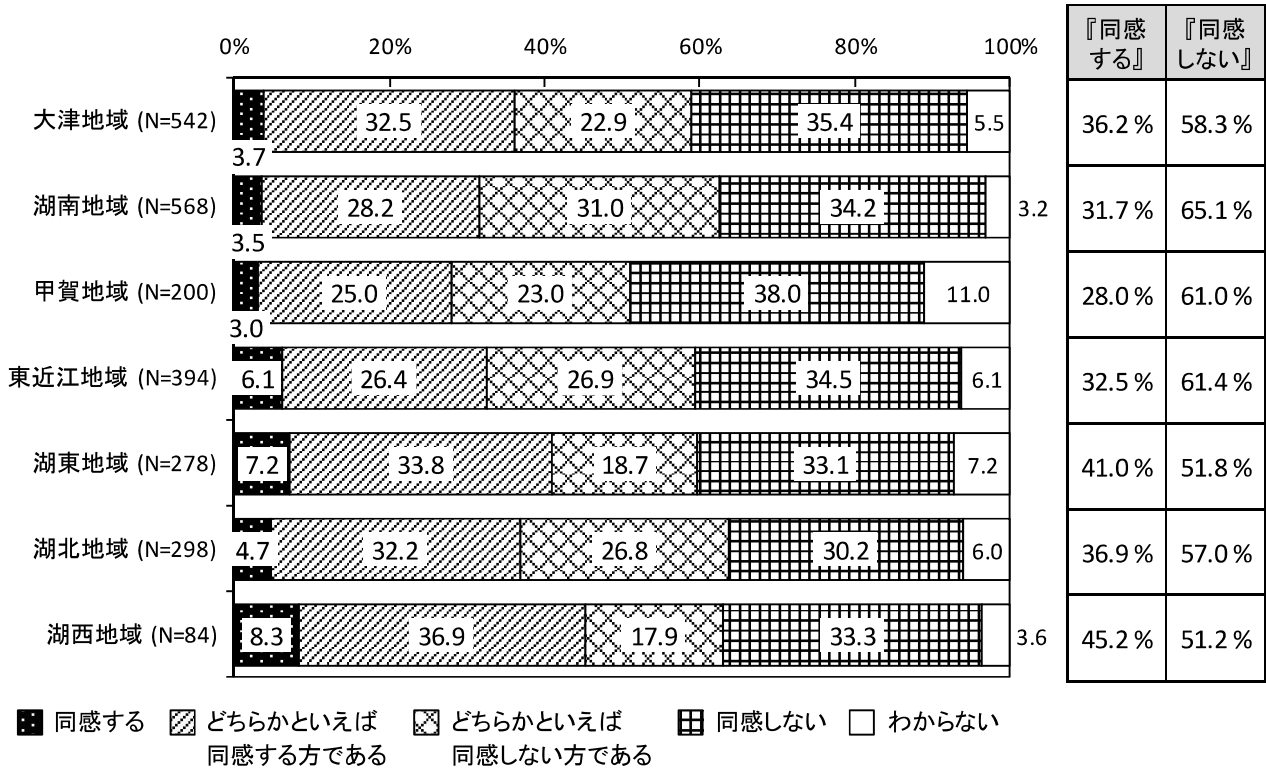
男性では、70歳以上（50.2%）と60～69歳（47.1%）で『同感する』の割合が他の年代よりも高く、また女性でも、70歳以上で『同感する』が50.7%と他の年代よりもその割合がかなり高くなっており、総じて男性・女性とも比較的高い年齢層で「男性は仕事をし、女性は家庭を守るべき」という考え方を肯定する割合が高い。



同意する
 どちらかといえば同意する方である
 どちらかといえば同意しない方である
 同意しない
 わからない

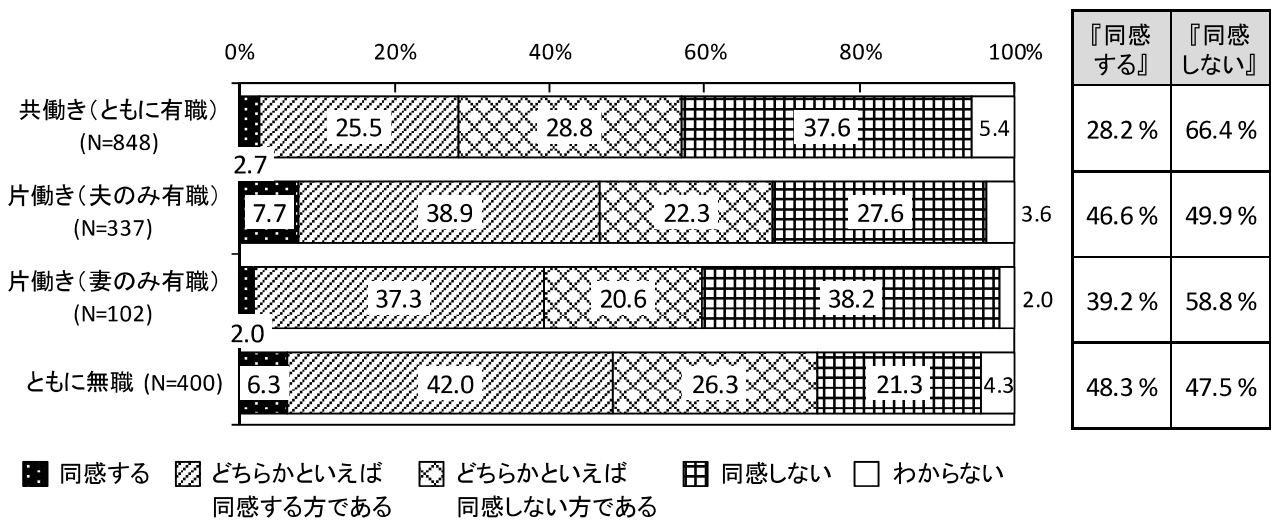
【地域別】

湖西地域（45.2%）、湖東地域（41.0%）では『同感する』が40%を超えている。他の地域では28～37%となっている。



【片働き・共働き別】

『同意する』の割合が、共働きでは28.2%であるのに対し、片働き（夫のみ有職）では46.6%、片働き（妻のみ有職）では39.2%となっており、片働きは共働きよりも、「男性は仕事をし、女性は家庭を守るべき」という考え方を肯定する割合が高い。

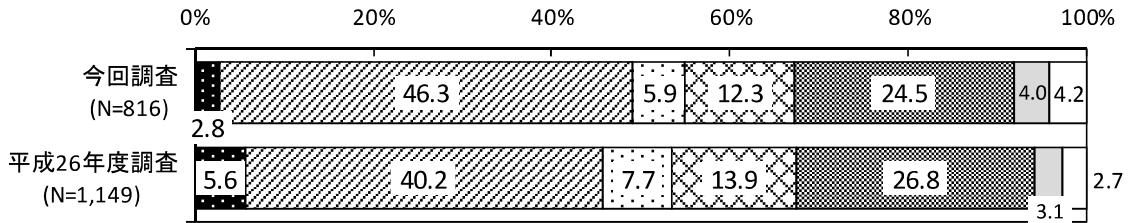


(4) 「同感する」「どちらかといえば同感する方である」と考える理由

付問1 問9で「1」または「2」と回答された方へおたずねします。
 「同感する」、「どちらかといえば同感する方である」とお考えの理由は次のどれに当たりますか。あなたの考え方に最も近いものの番号を、1つだけ選んでください。

●「母親が家庭にいた方が、子どもの成長にとって良いと思うから」が46.3%で最多

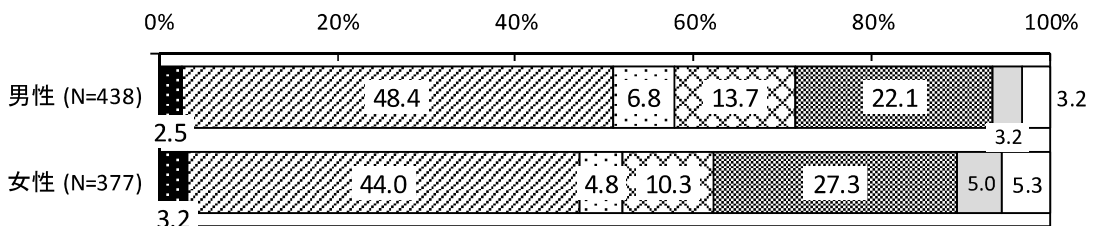
「男性が仕事をし、女性が家庭を守るべき」という考え方に『同感する』理由は、「母親が家庭にいた方が、子どもの成長にとって良いと思うから」が46.3%で最も多く、平成26年度調査と比較して6.1ポイント上昇している。



- 日本の伝統だと思うから
- 母親が家庭にいた方が、子どもの成長にとって良いと思うから
- 配偶者や家族が望んでいるから
- 仕事と家庭を両立するより、性別で役割を分担した方が効率が良いと思うから
- 能力的にみて、男性は仕事に向いており、女性は家事・育児・介護等に向いていると思うから
- その他
- 理由を考えたことはない

【性別】

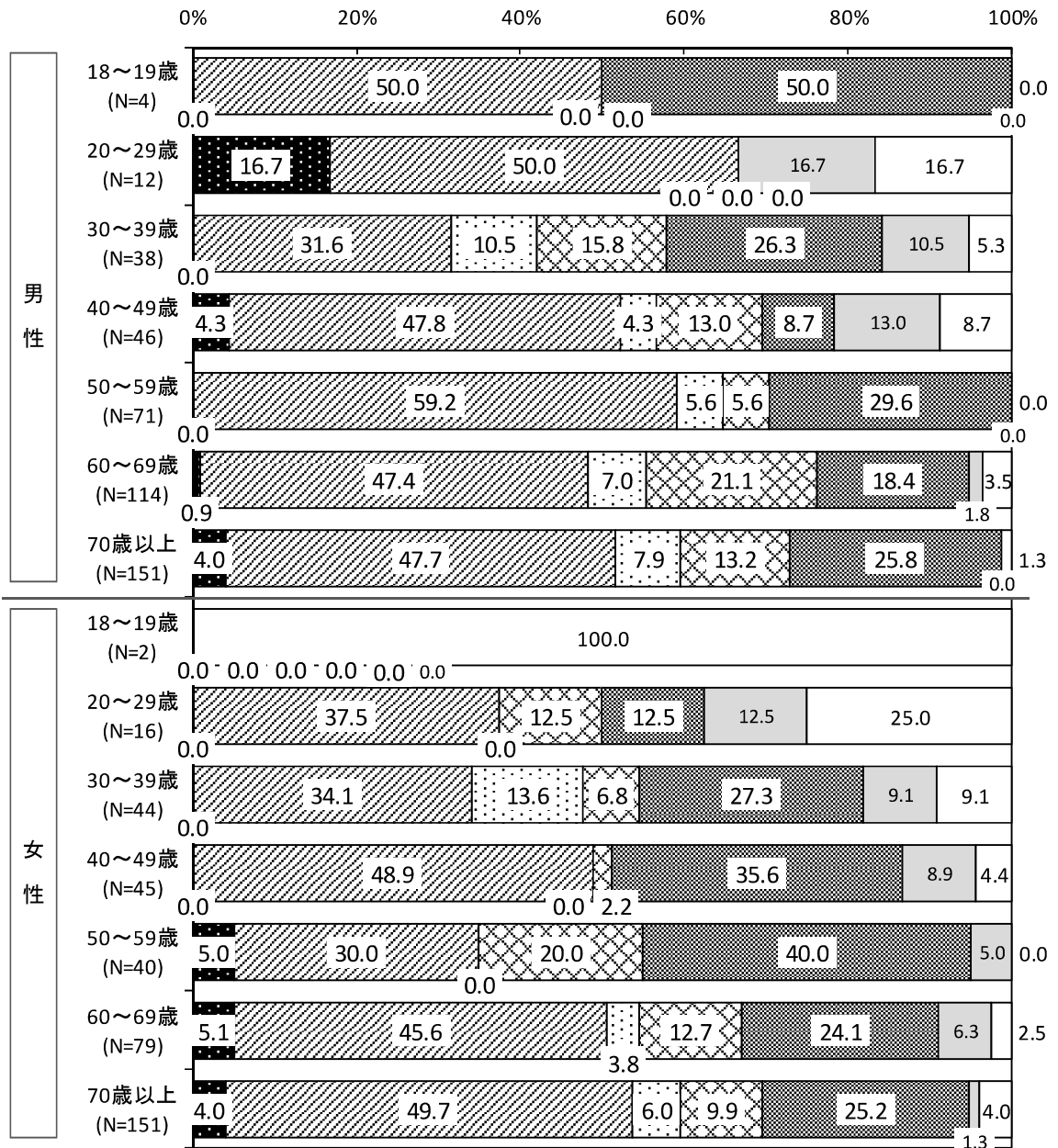
男性・女性とも「母親が家庭にいた方が、子どもの成長にとって良いと思うから」が最も多く、男性が48.4%、女性が44.0%となっている。次いで「能力的にみて、男性は仕事に向いており、女性は家事・育児・介護に向いていると思うから」が、男性で22.1%、女性で27.3%となっている。



- 日本の伝統だと思うから
- 母親が家庭にいた方が、子どもの成長にとって良いと思うから
- 配偶者や家族が望んでいるから
- 仕事と家庭を両立するより、性別で役割を分担した方が効率が良いと思うから
- 能力的にみて、男性は仕事に向いており、女性は家事・育児・介護等に向いていると思うから
- その他
- 理由を考えたことはない

【性・年代別】

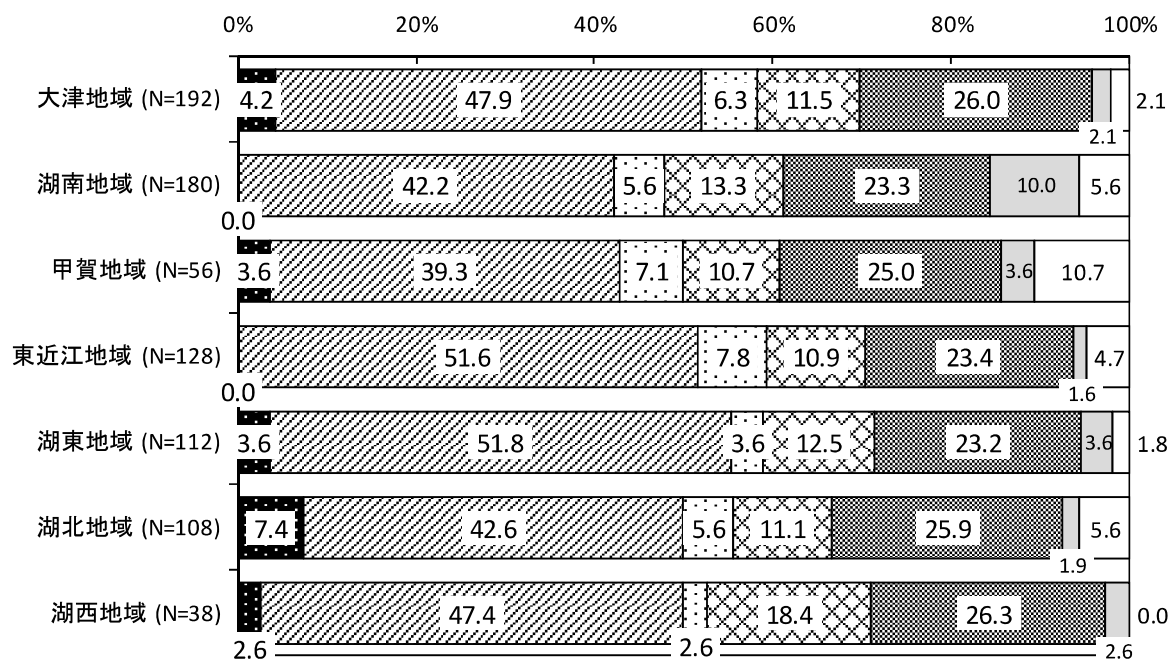
男性ではすべての年代、女性でも 18～19 歳と 50～59 歳を除く年代において「母親が家庭にいた方が、子どもの成長にとって良いと思うから」が最も多くなっている。一方、女性の 50～59 歳では「能力的にみて、男性は仕事に向いており、女性は家事・育児・介護に向いていると思うから」が最も多くなっている。



- 日本の伝統だと思うから
- 母親が家庭にいた方が、子どもの成長にとって良いと思うから
- 配偶者や家族が望んでいるから
- 仕事と家庭を両立するより、性別で役割を分担した方が効率が良いと思うから
- 能力的にみて、男性は仕事に向いており、女性は家事・育児・介護等に向いていると思うから
- その他
- 理由を考えたことはない

【地域別】

どの地域においても、「母親が家庭にいた方が、子どもの成長にとって良いと思うから」が最も多くなっている。



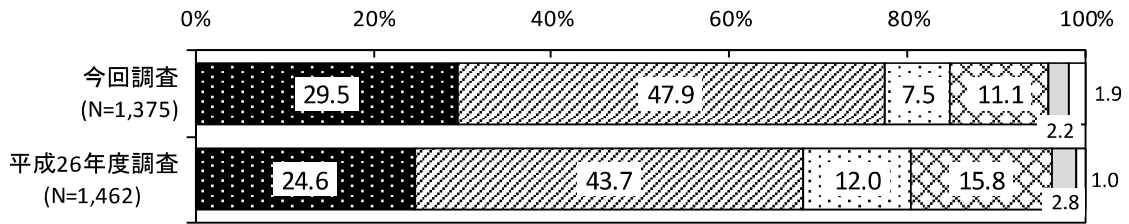
- 日本の伝統だと思うから
- ▨ 母親が家庭にいた方が、子どもの成長にとって良いと思うから
- ▩ 配偶者や家族が望んでいるから
- ▧ 仕事と家庭を両立するより、性別で役割を分担した方が効率が良いと思うから
- ▦ 能力的にみて、男性は仕事に向いており、女性は家事・育児・介護等に向いていると思うから
- その他
- 理由を考えたことはない

(5) 「どちらかといえば同感しない方である」「同感しない」と考える理由

付問2 問9で「3」または「4」と回答された方へおたずねします。
 「どちらかといえば同感しない方である」「同感しない」とお考えの理由は次のどれに当たりますか。あなたの考え方に最も近いものの番号を、1つだけ選んでください。

●「男女ともに仕事と家事・育児・介護等の両方に関わる方が、各個人、家庭にとって良いと思うから」が47.9%

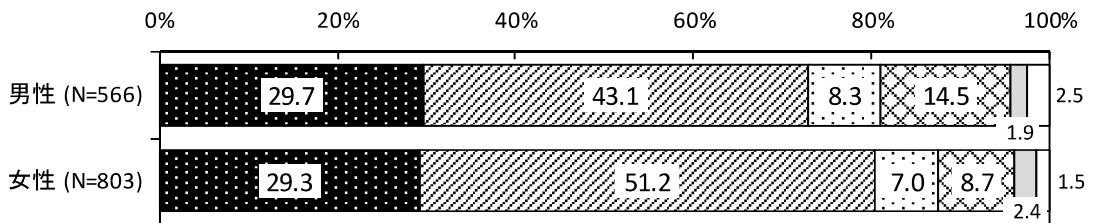
「男性が仕事をし、女性が家庭を守るべき」という考え方に『同感しない』理由は、「男女ともに仕事と家事・育児・介護等の両方に関わる方が、各個人、家庭にとって良いと思うから」が47.9%で最も多く、平成26年調査と比較して4.2ポイント上昇している。また、「性別によって一律に役割を求めることはおかしいと思うから」は4.9ポイント上昇している。



- 性別によって一律に役割を決めることはおかしいと思うから
- 男女ともに仕事と家事・育児・介護等の両方に関わる方が、各個人、家庭にとって良いと思うから
- 女性も仕事をする方が、生活が安定すると思うから
- 家庭以外の場面でも、女性の能力を活かせると思うから
- その他
- 理由を考えたことはない

【性別】

男性・女性とも「男女ともに仕事と家事・育児・介護等の両方に関わる方が、各個人、家庭にとって良いと思うから」が最も多く、男性が43.1%、女性が51.2%となっている。次いで「性別によって一律に役割を決めることはおかしいと思うから」で、男性が29.7%、女性が29.3%となっている。

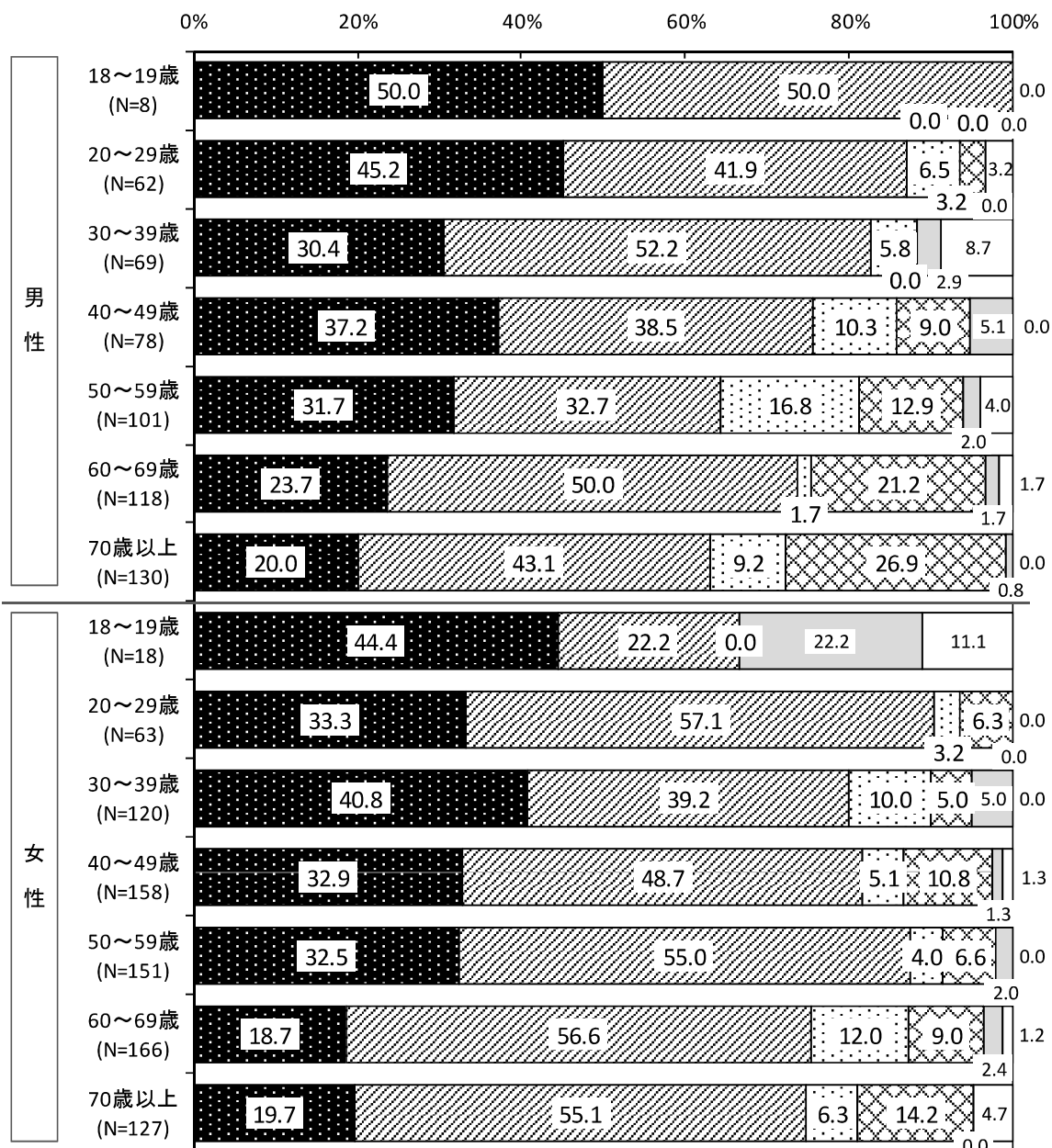


- 性別によって一律に役割を決めることはおかしいと思うから
- 男女ともに仕事と家事・育児・介護等の両方に関わる方が、各個人、家庭にとって良いと思うから
- 女性も仕事をする方が、生活が安定すると思うから
- 家庭以外の場面でも、女性の能力を活かせると思うから
- その他
- 理由を考えたことはない

【性・年代別】

男性では、20～29歳を除く年代においては、「男女ともに仕事と家事・育児・介護等の両方に関わる方が、各個人、家庭にとって良いと思うから」が最も多くなっている。

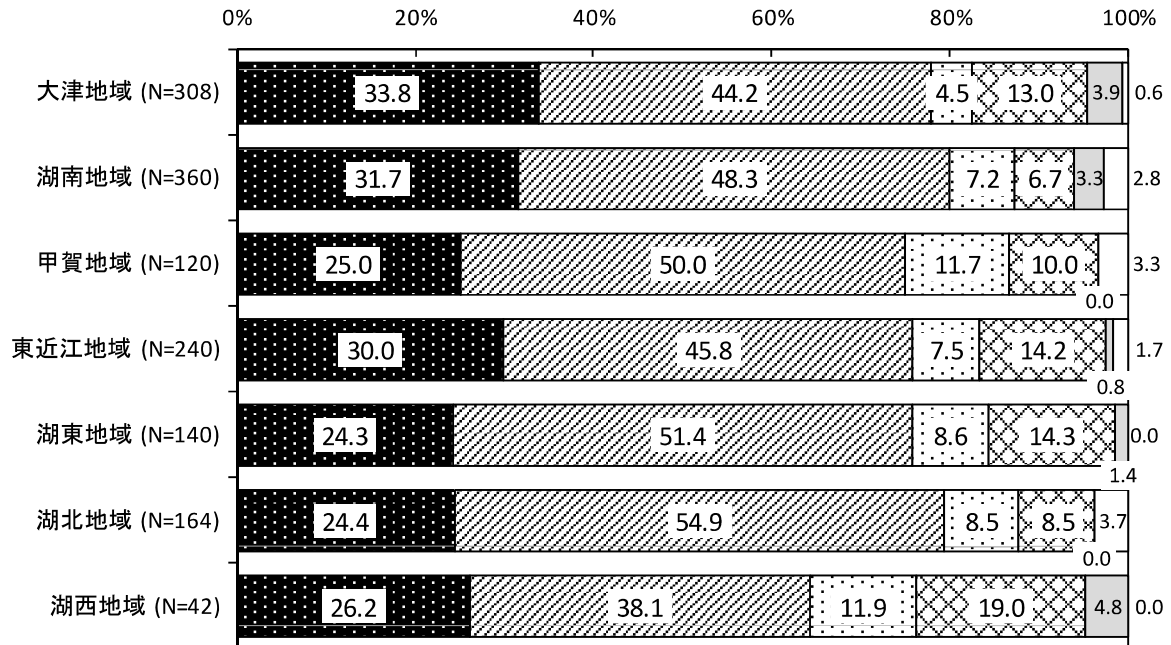
女性でも、18～19歳と30～39歳を除く年代においては、「男女ともに仕事と家事・育児・介護等の両方に関わる方が、各個人、家庭にとって良いと思うから」が最も多くなっている。



- 性別によって一律に役割を決めることはおかしいと思うから
- ▨ 男女ともに仕事と家事・育児・介護等の両方に関わる方が、各個人、家庭にとって良いと思うから
- ▤ 女性も仕事をする方が、生活が安定すると思うから
- ▩ 家庭以外の場面でも、女性の能力を活かせると思うから
- その他
- 理由を考えたことはない

【地域別】

どの地域においても「男女ともに仕事と家事・育児・介護等の両方に関わる方が、各個人、家庭にとって良いと思うから」が最も多く、次いで「性別によって一律に役割を決めることはおかしいと思うから」となっている。



- 性別によって一律に役割を決めることはおかしいと思うから
- ▨ 男女ともに仕事と家事・育児・介護等の両方に関わる方が、各個人、家庭にとって良いと思うから
- ▤ 女性も仕事をする方が、生活が安定すると思うから
- ▩ 家庭以外の場面でも、女性の能力を活かせると思うから
- その他
- 理由を考えたことはない